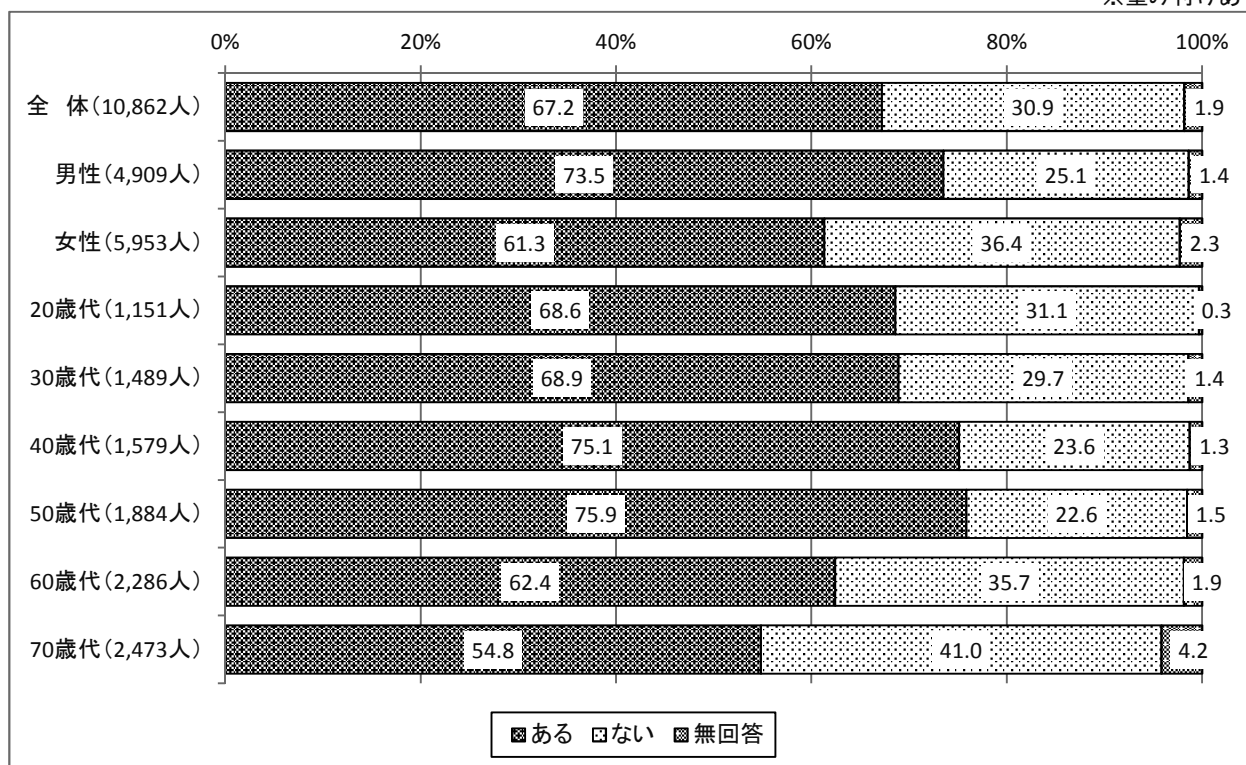


健診(検診)の受診について

問24 あなたは、この1年間に、健診等を受けたことがありますか。(○は1つ)

※重み付けあり



この一年間に健診等を受けたことが「ある」と回答した割合は、全体の67.2%であった。

性別の集計では、男性で73.5%、女性で61.3%が「ある」と回答し、男性のほうが健診等を受けた割合が高かった。

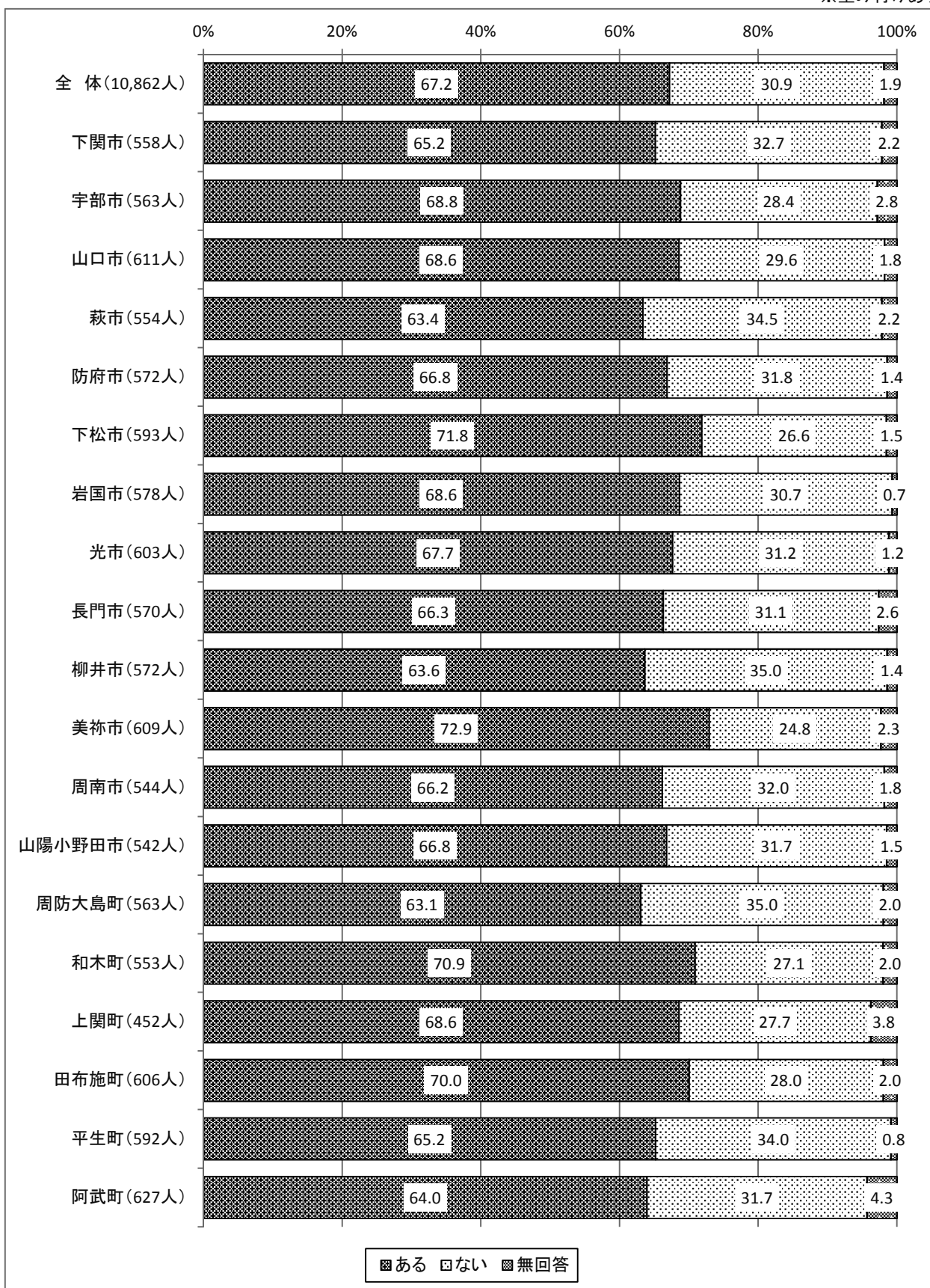
年齢別の集計では、この一年間に健診等を受けたことが「ある」と回答した割合は、40歳代、50歳代で最も高く75%程度となるが、60歳代以降に大きく減少していた。

この健診に関するグラフは、問21の「働いている」ことに関するグラフに類似しており、職場の健康診断受診を反映した可能性がある。

市町別の集計においては、この一年間に健診等を受けたことが「ある」と回答した割合は、下松市、美祢市、和木町、田布施町で高く70%を超え、萩市、柳井市、周防大島町で低く63%台となった。

参考値 平成25年国民生活基礎調査 健診や人間ドックの受診状況 男：67.2% 女：57.9%

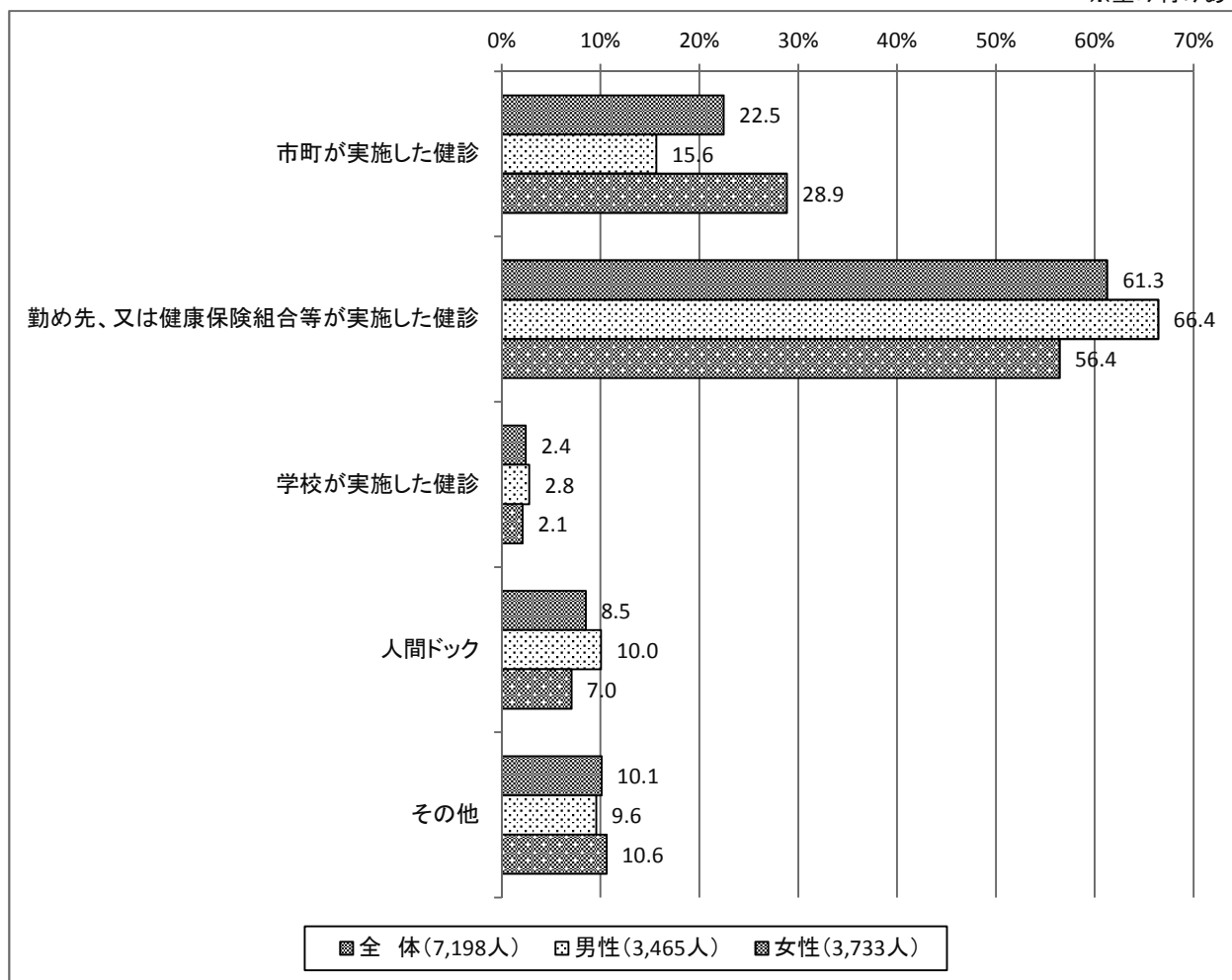
※重み付けあり



問24-1 どのような機会に健診等を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※問24で健診を受けたことがあると回答した人のみ

※重み付けあり

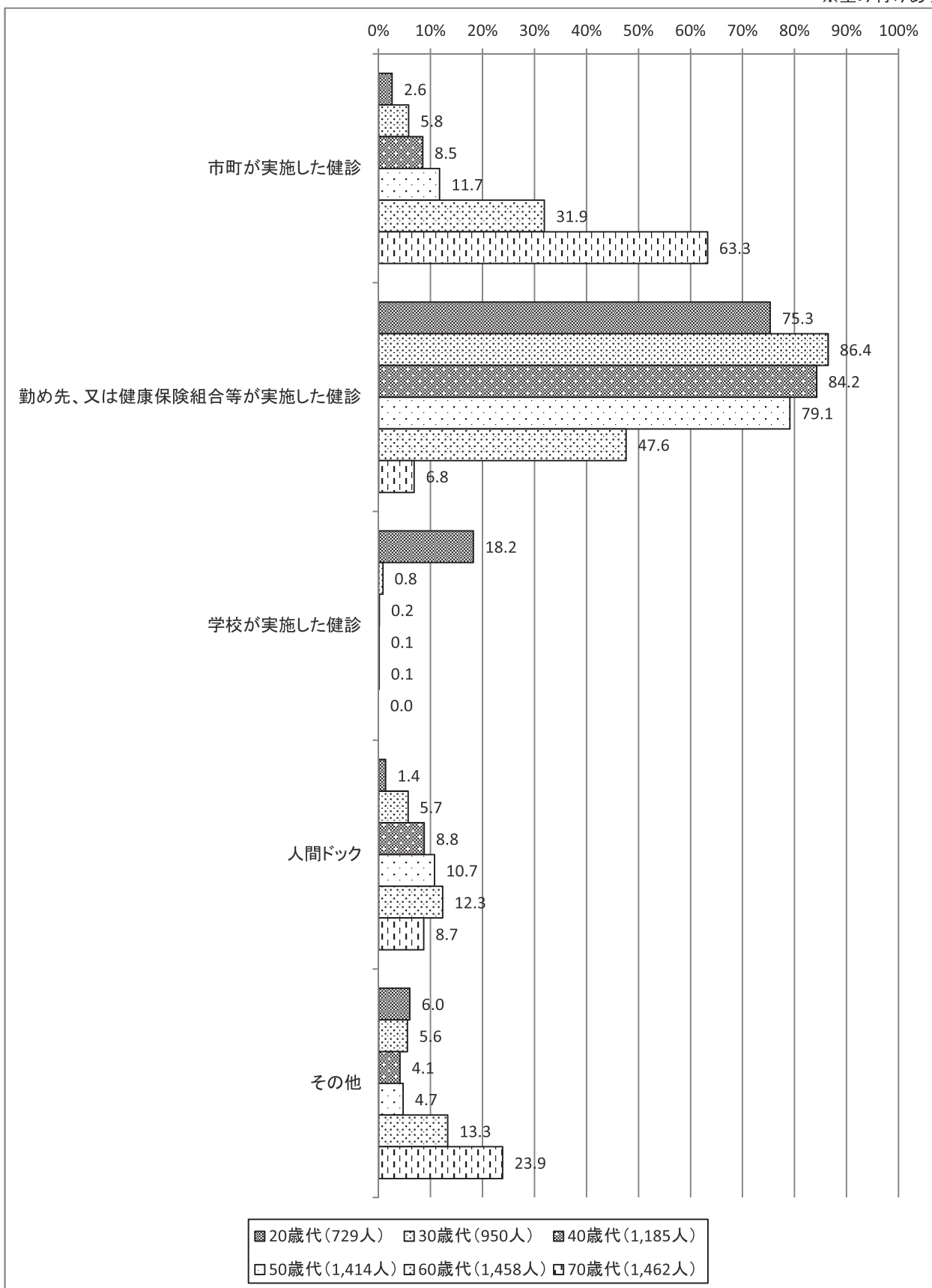


全体の集計において、「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」を受けた割合が最も高く61.3%、次いで「市町が実施した健診」を受けた割合が22.5%であった。

性別の集計においても同様の傾向があったが、男性は「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」を受けた割合がやや高く、女性は「市町が実施した健診」を受けた割合がやや高かった。

年代別の集計では、20歳代から50歳代にかけては「勤め先、又は健康保険組合等が実施した健診」を受けた割合が高く、60歳代から70歳代にかけては「市町が実施した健診」を受けた割合が高かった。20歳代においては、「学校が実施した健診」を受けた割合も高かった。それぞれの年代の社会的な活動状況(学校や会社等)を反映した結果と考えられる。

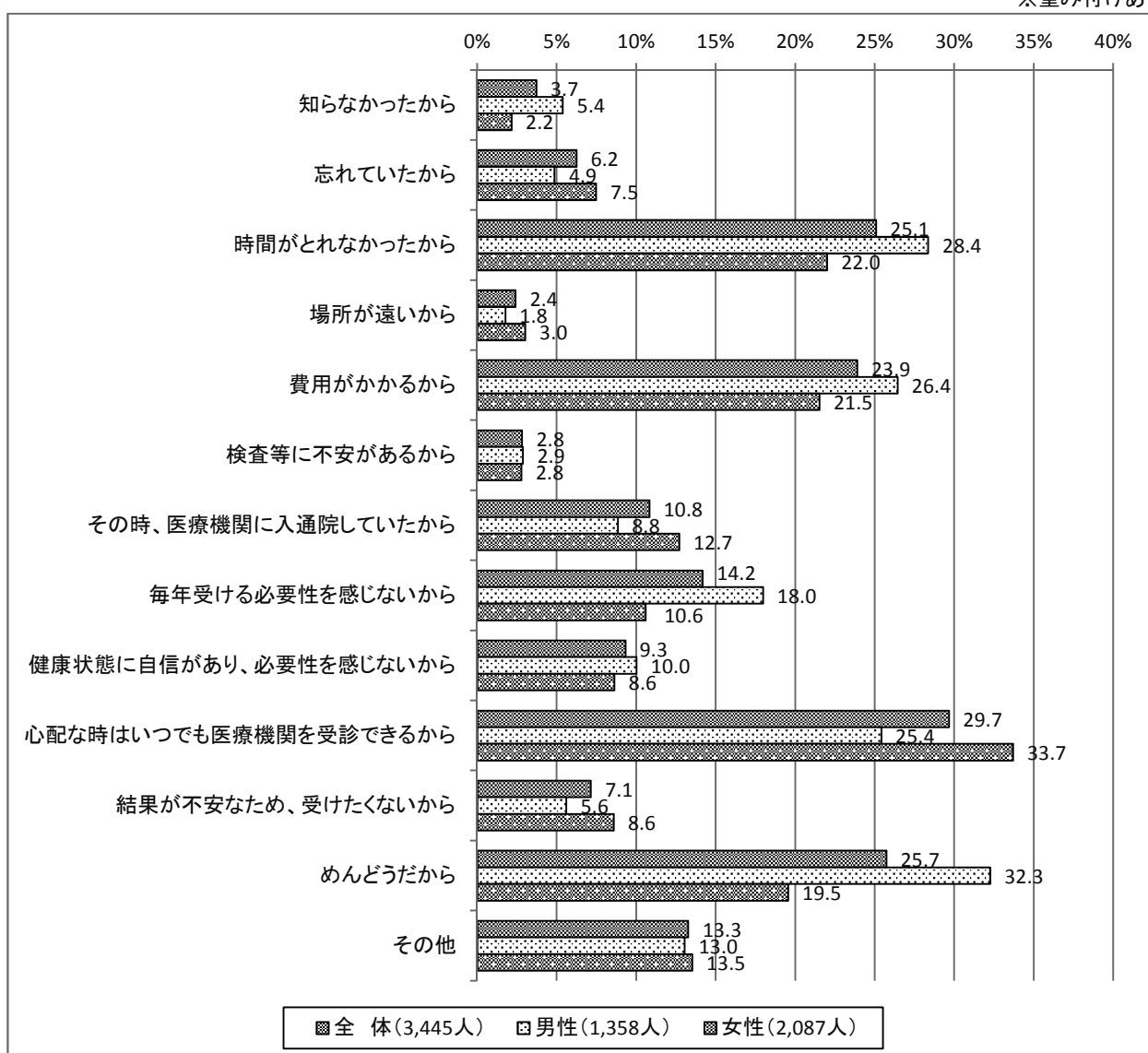
※重み付けあり



問24-2 それは、どのような理由で受けなかったのですか。(あてはまるものすべてに○)

※問24で健診を受けたことがないと回答した人のみ

※重み付けあり

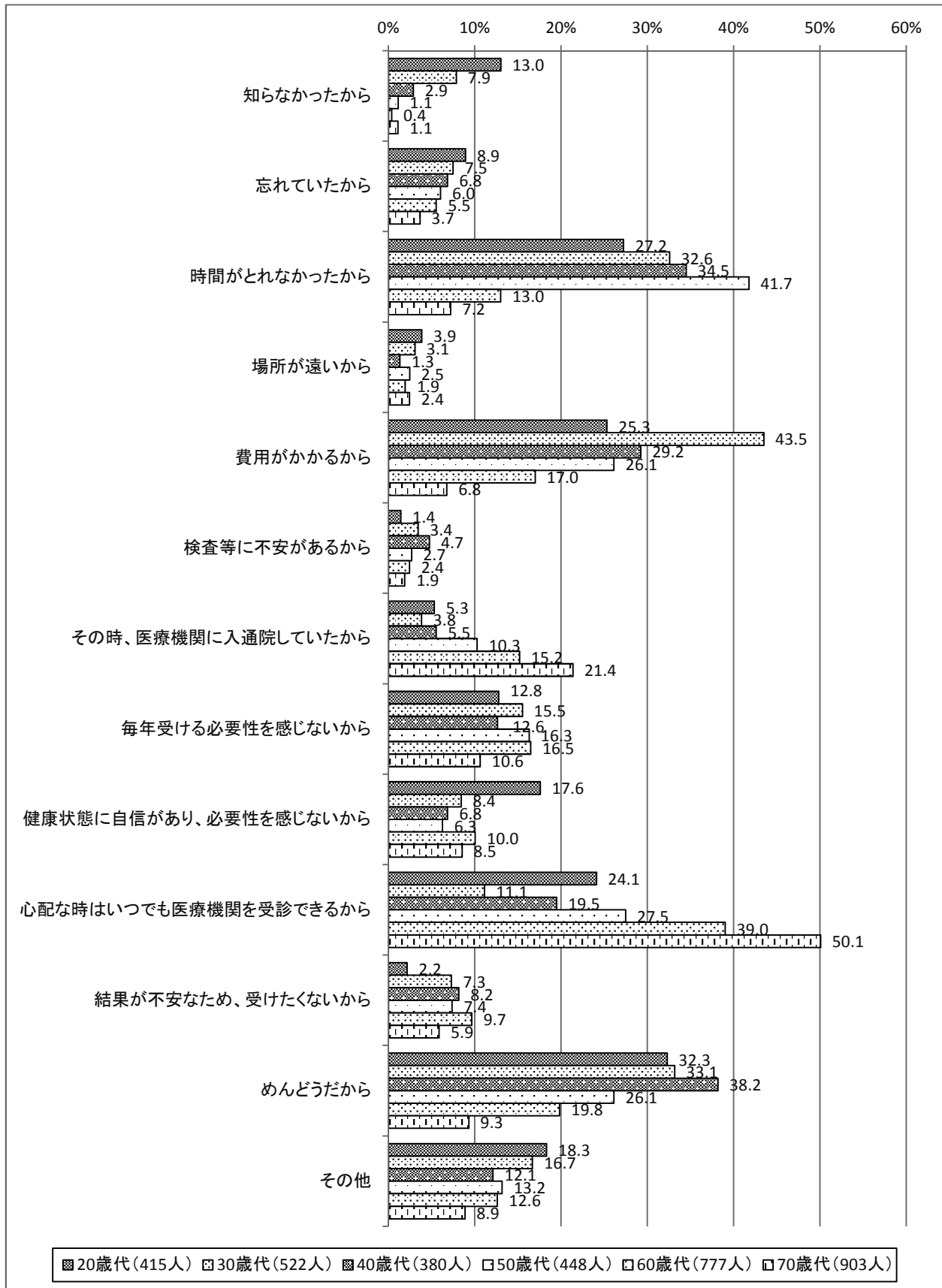


健診を受けなかった理由としては、「時間がとれなかったから」、「費用がかかるから」、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、「めんどうだから」という回答割合が高く、全体の集計では、それぞれ25%程度となった。これらの項目は、性別の集計においても回答割合が高くなっていた。

年代別の集計では、「時間がとれなかったから」、「費用がかかるから」、「めんどうだから」と回答した割合は、20歳代から50歳代で高く、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した割合は、60歳代、70歳代で高い。これは、年代毎のライフスタイルの影響が一因として考えられる。

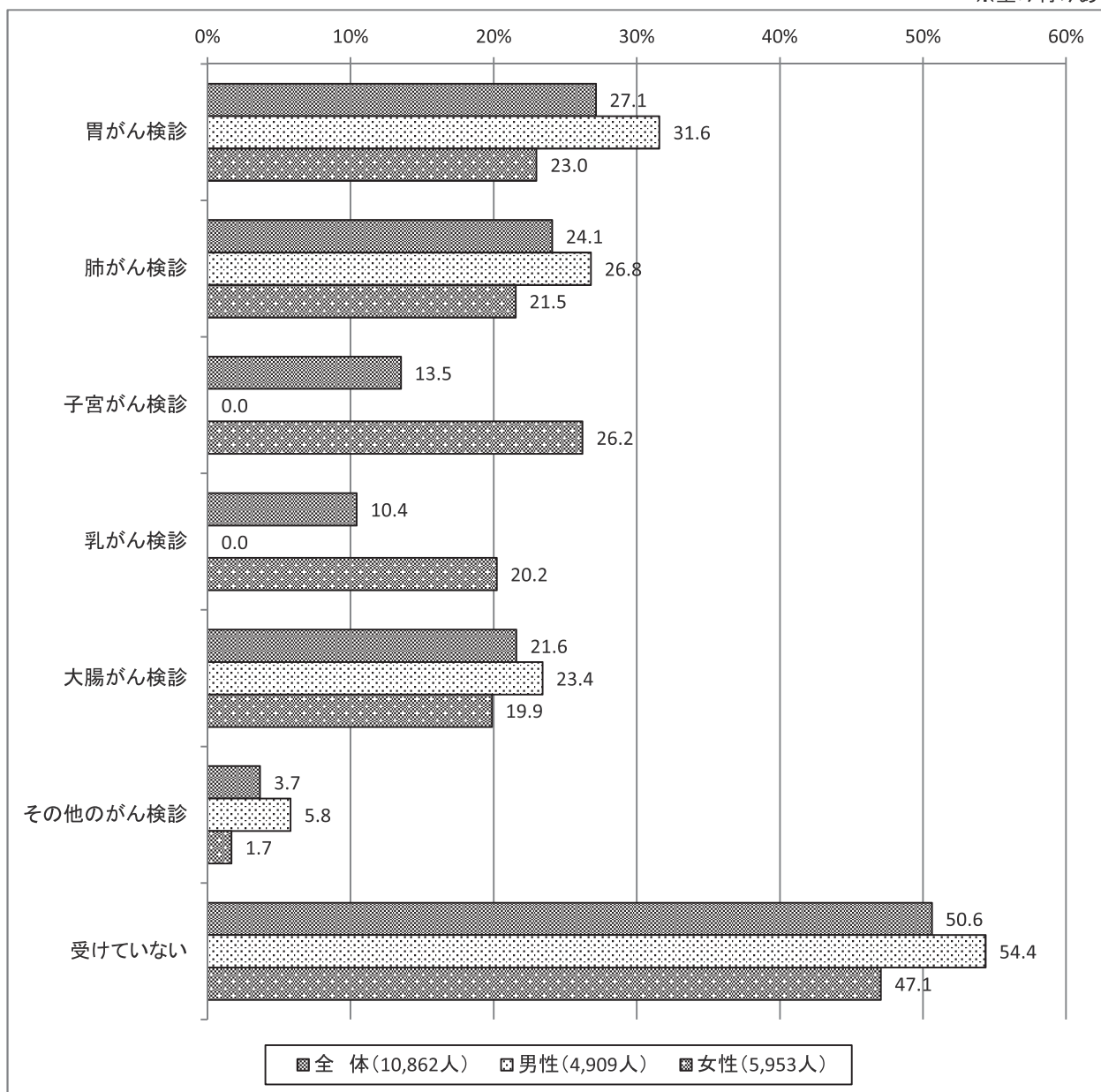
参考値 平成25年国民生活基礎調査 「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」 32.5%、「時間がとれなかったから」 20.6%、「めんどうだから」 18.5%、「費用がかかるから」 15.4%

※重み付けあり



問25 あなたは、この1年間に、以下のがん検診を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※重み付けあり



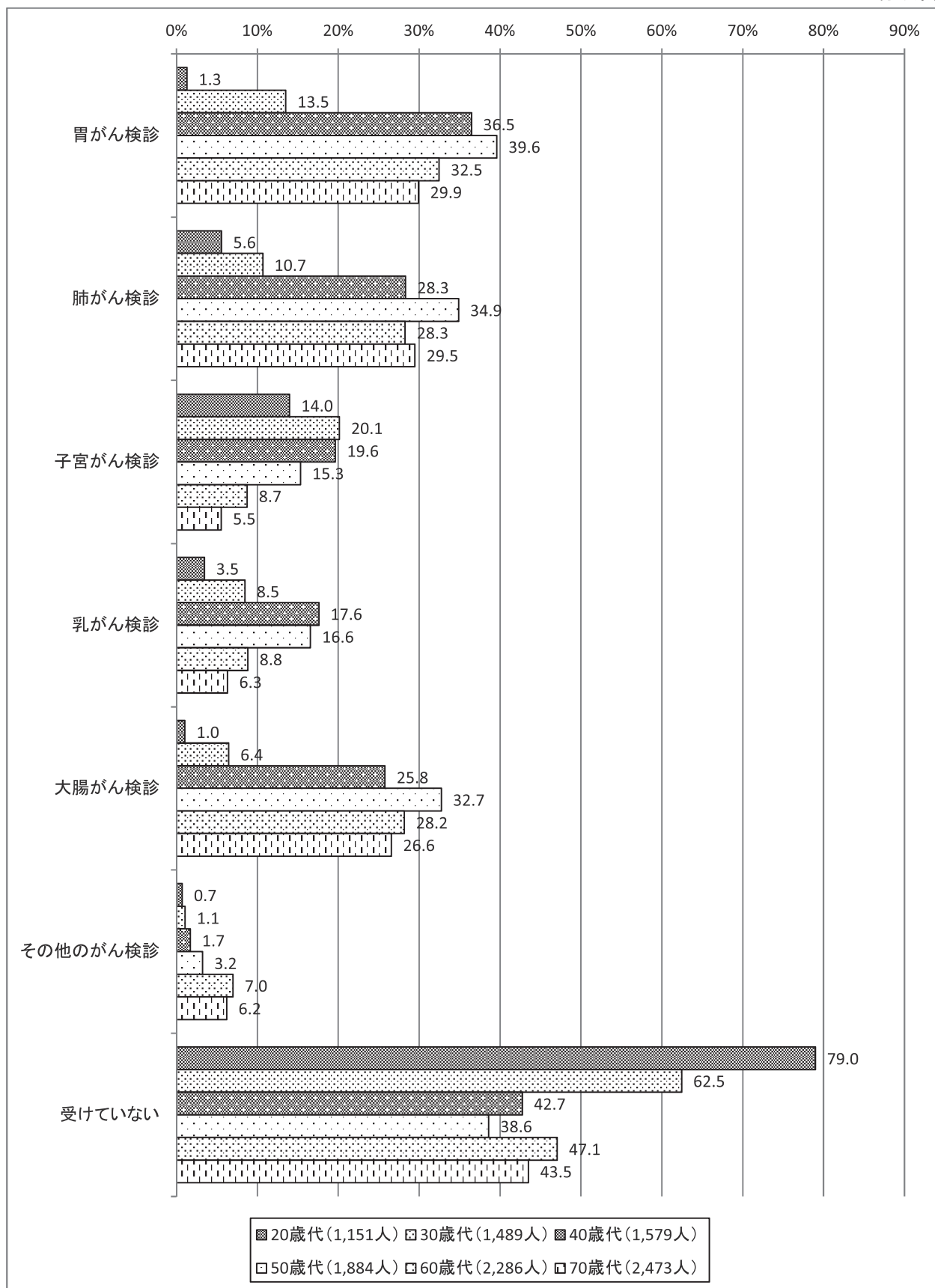
この1年間にがん検診を「受けていない」と回答した割合は、全体の50.6%であった。

性別の集計では、男性で54.4%、女性で47.1%が「受けていない」と回答し、女性の方がよりがん検診を受けている傾向があった。女性には「子宮がん検診」、「乳がん検診」を受けた人を含んでいる。

年代別の調査では、「受けていない」と回答した割合は、20歳代で79.0%、30歳代で62.5%、40歳代以降は横ばいで40%程度となっていた。

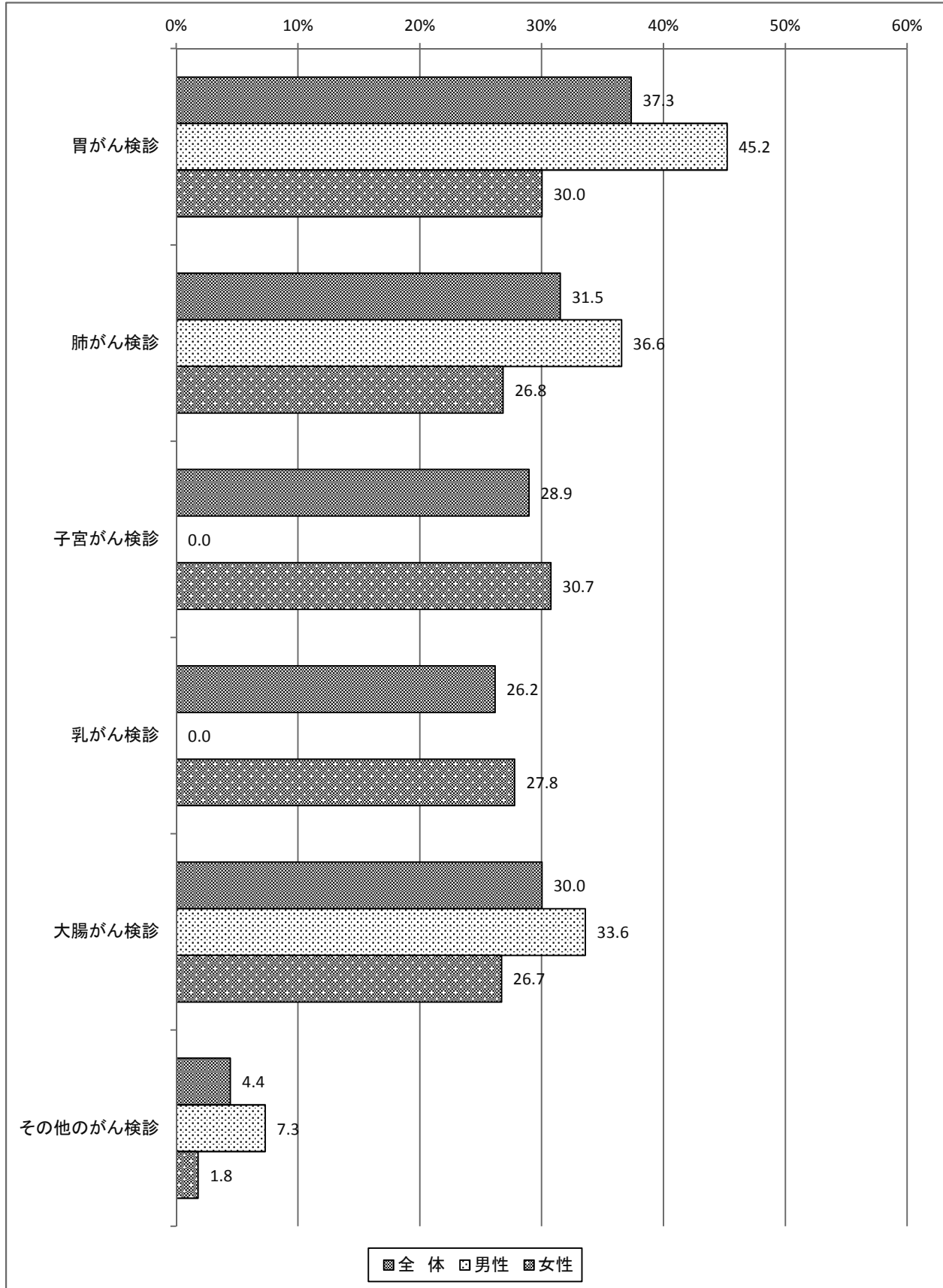
参考値 平成25年国民生活基礎調査 胃がん検診 男：45.8%、女：33.8%、肺がん検診 男：47.5%、女：37.4%、大腸がん検診 男：41.4%、女：34.5%、子宮がん検診 32.7%、乳がん検診 女：34.2%

※重み付けあり



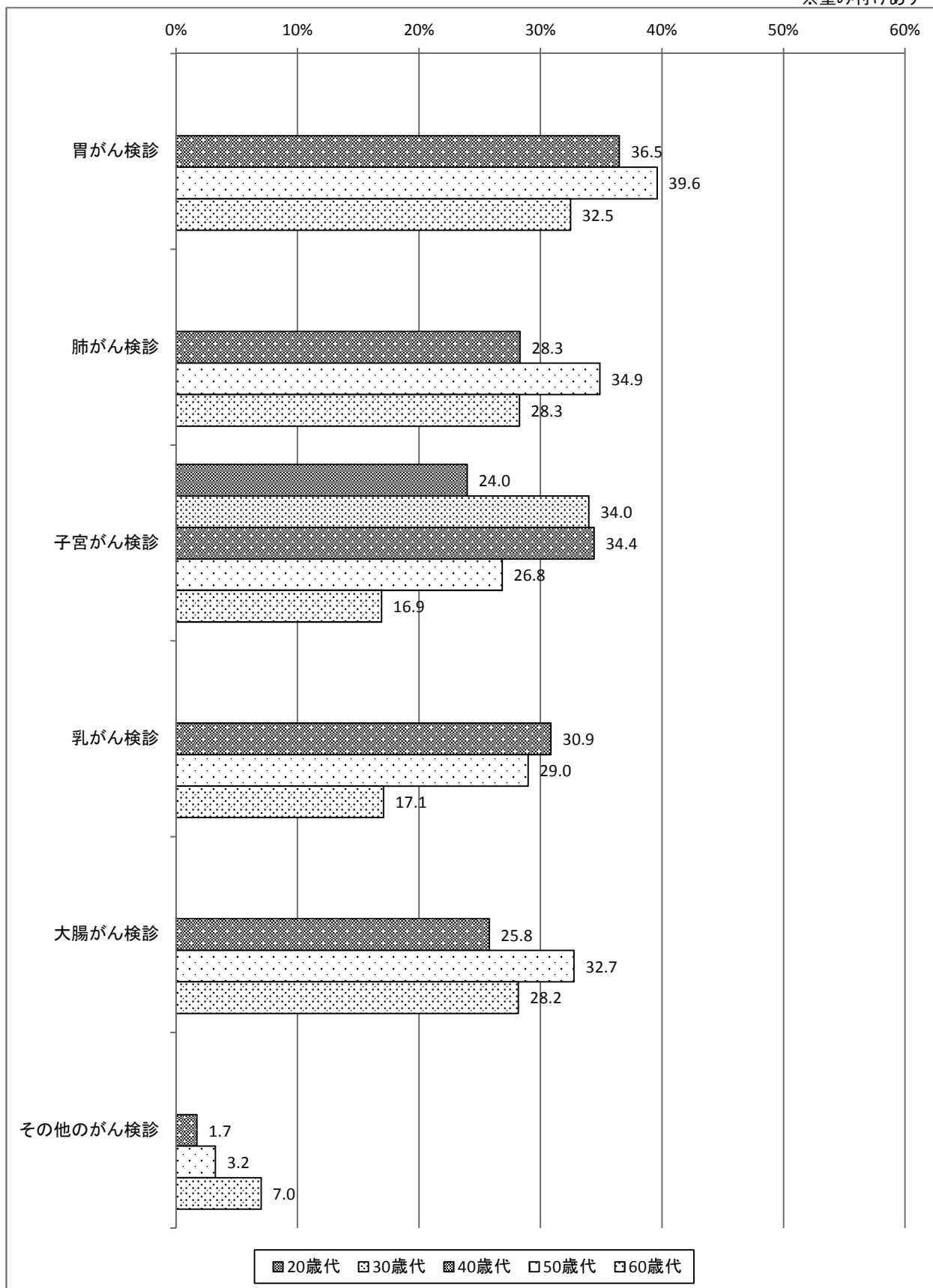
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)

※重み付けあり

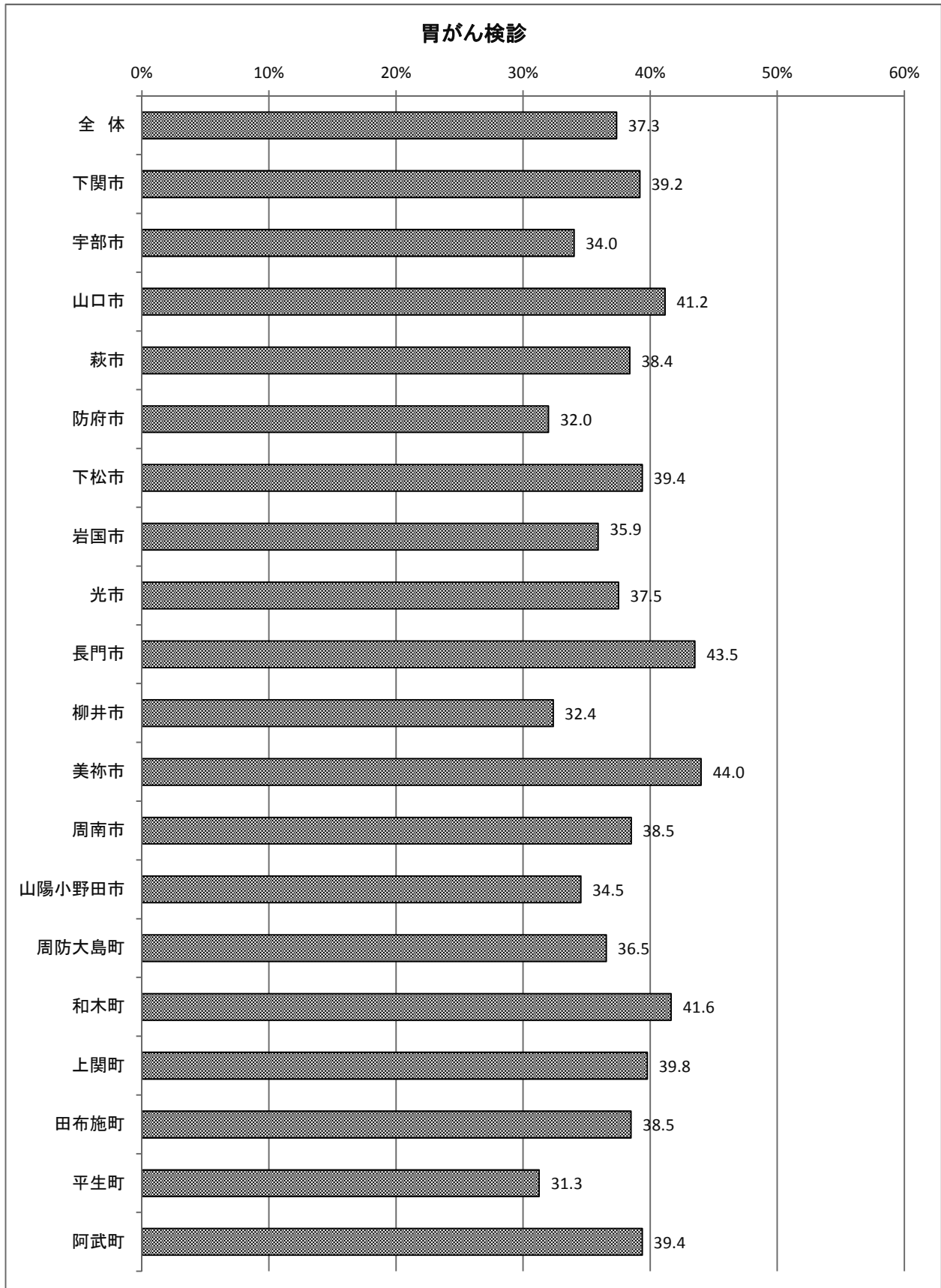


※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)

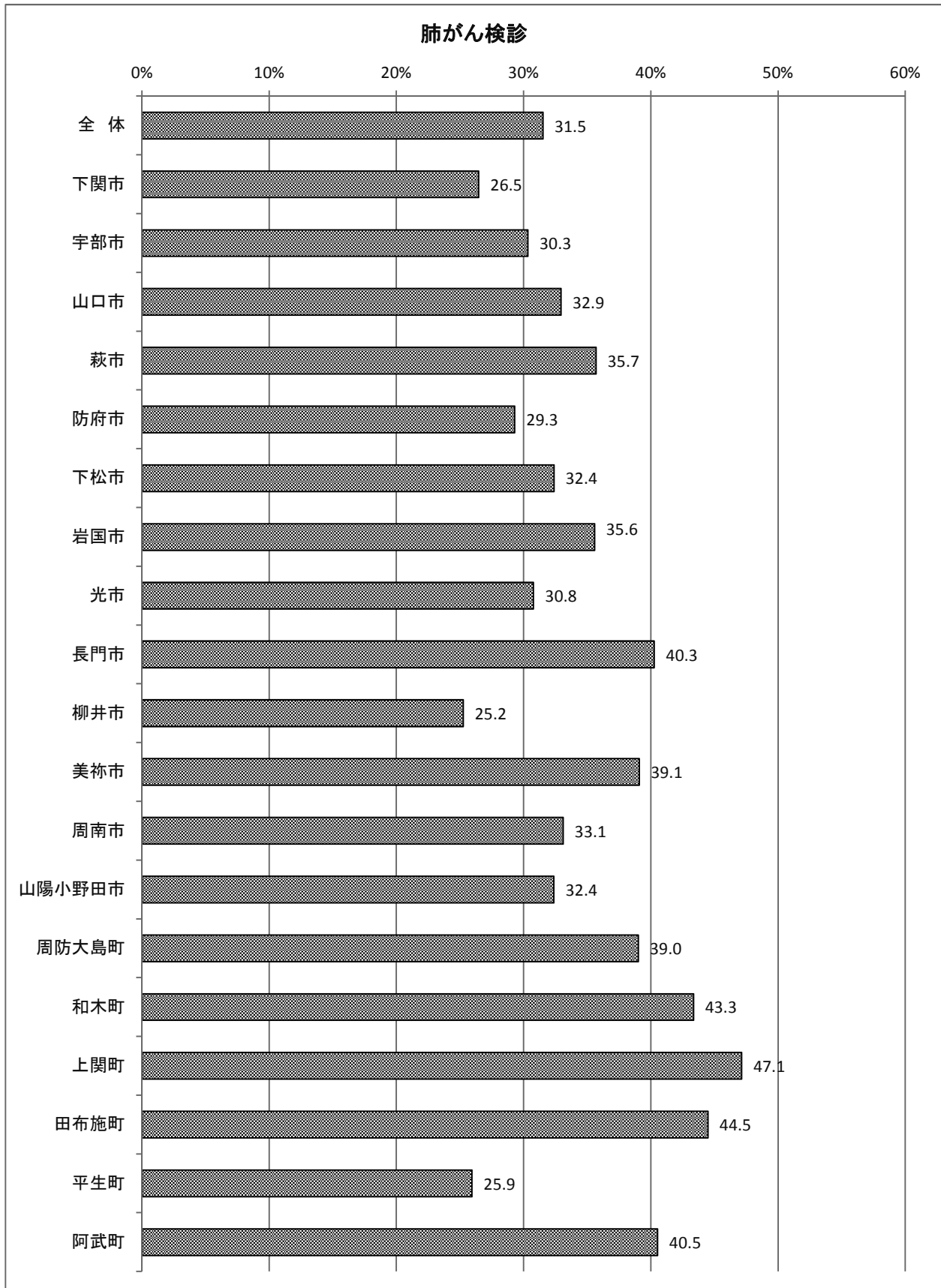
※重み付けあり



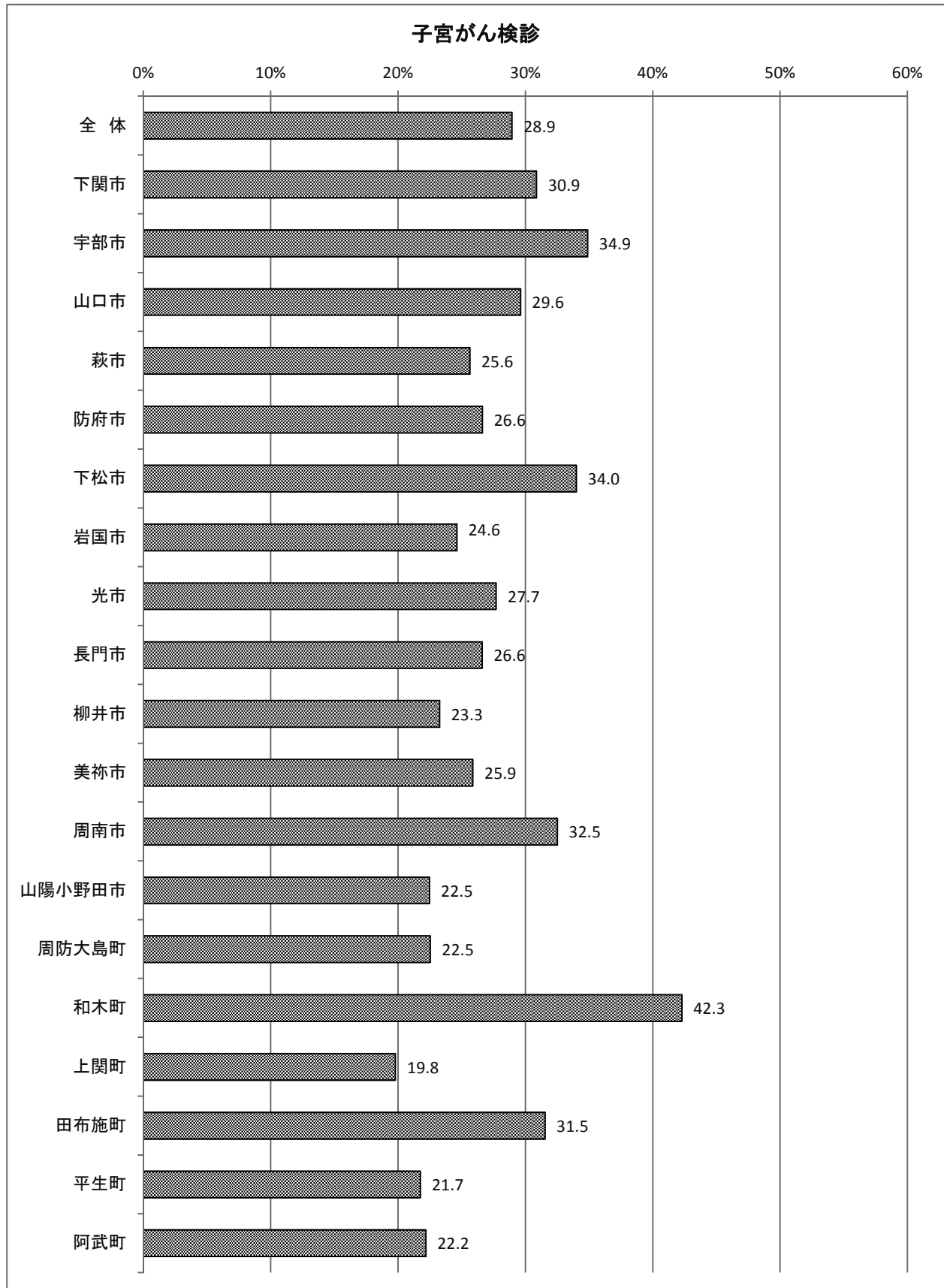
※40代～60代のみ
※重み付けあり



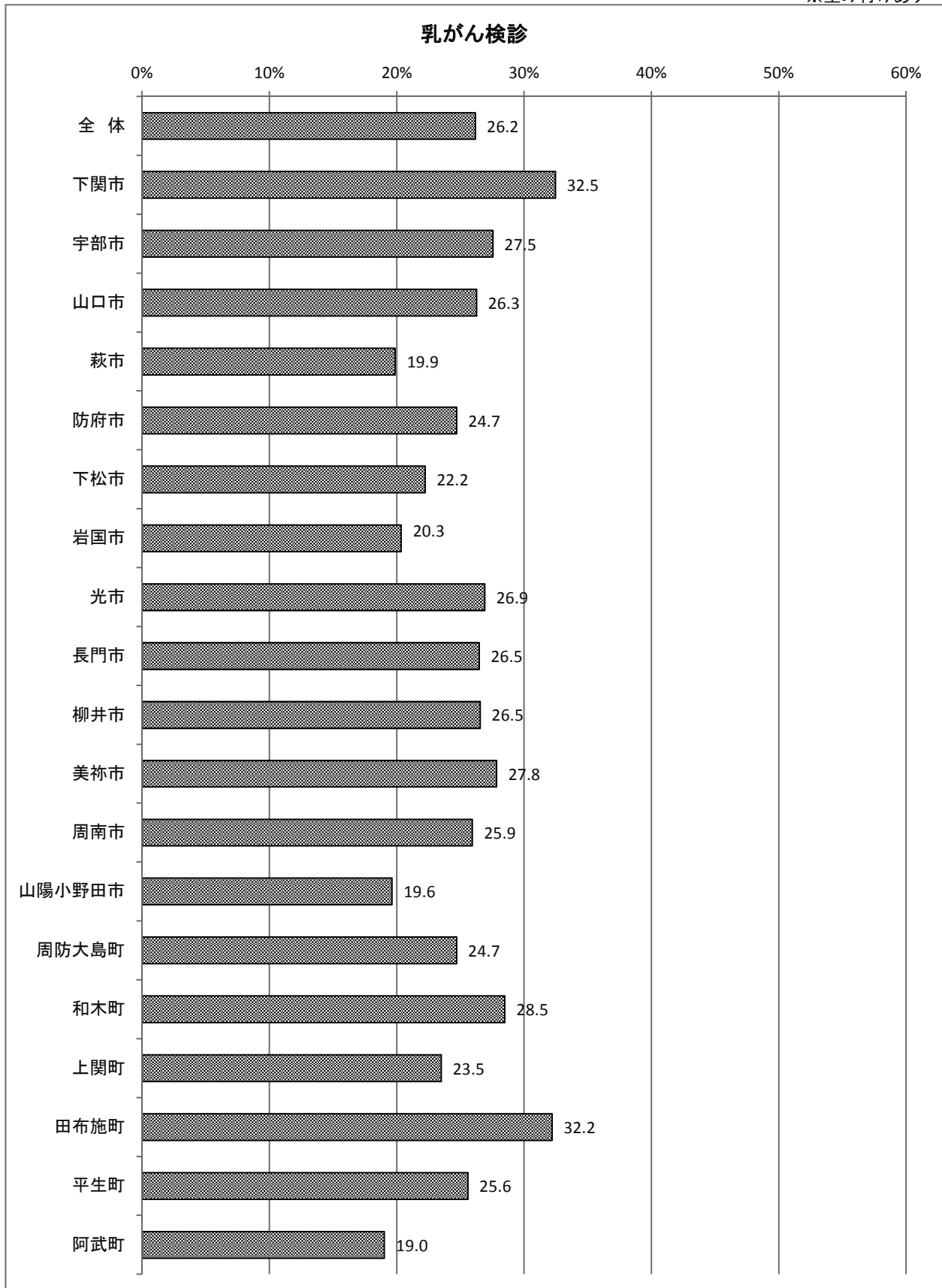
※40代～60代のみ
※重み付けあり



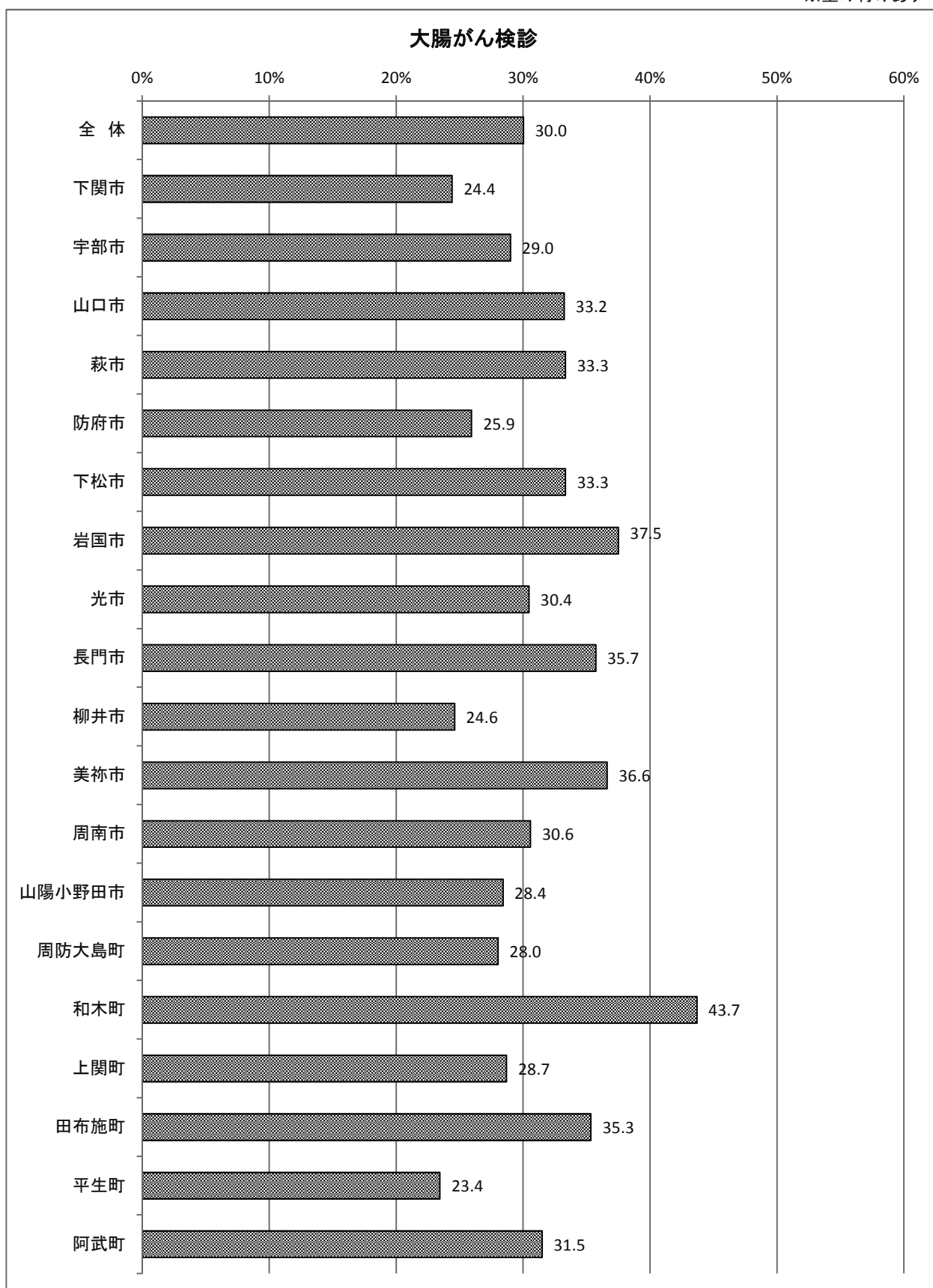
※20代～60代のみ
※重み付けあり



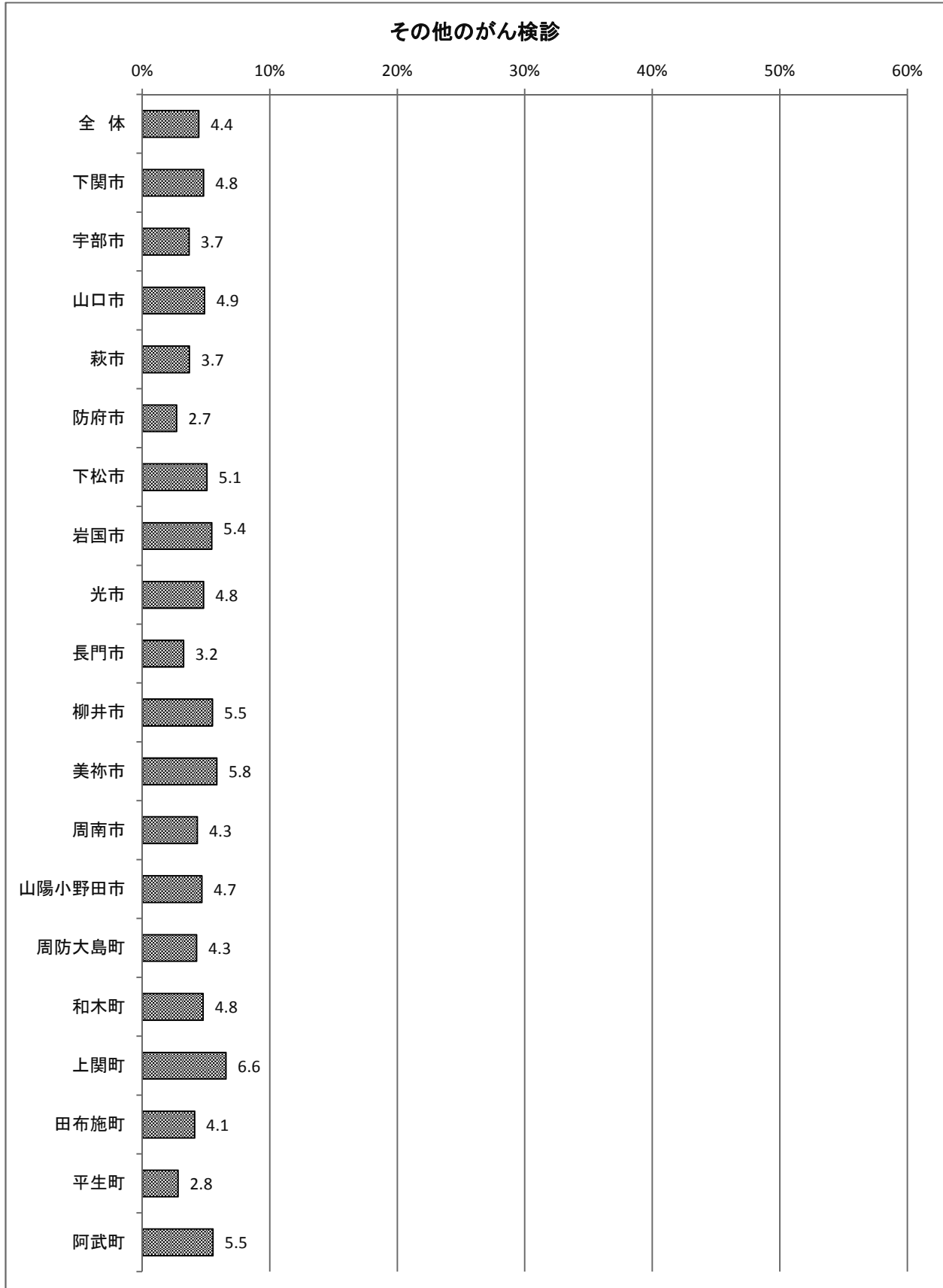
※40代～60代のみ
※重み付けあり



※40代～60代のみ
※重み付けあり



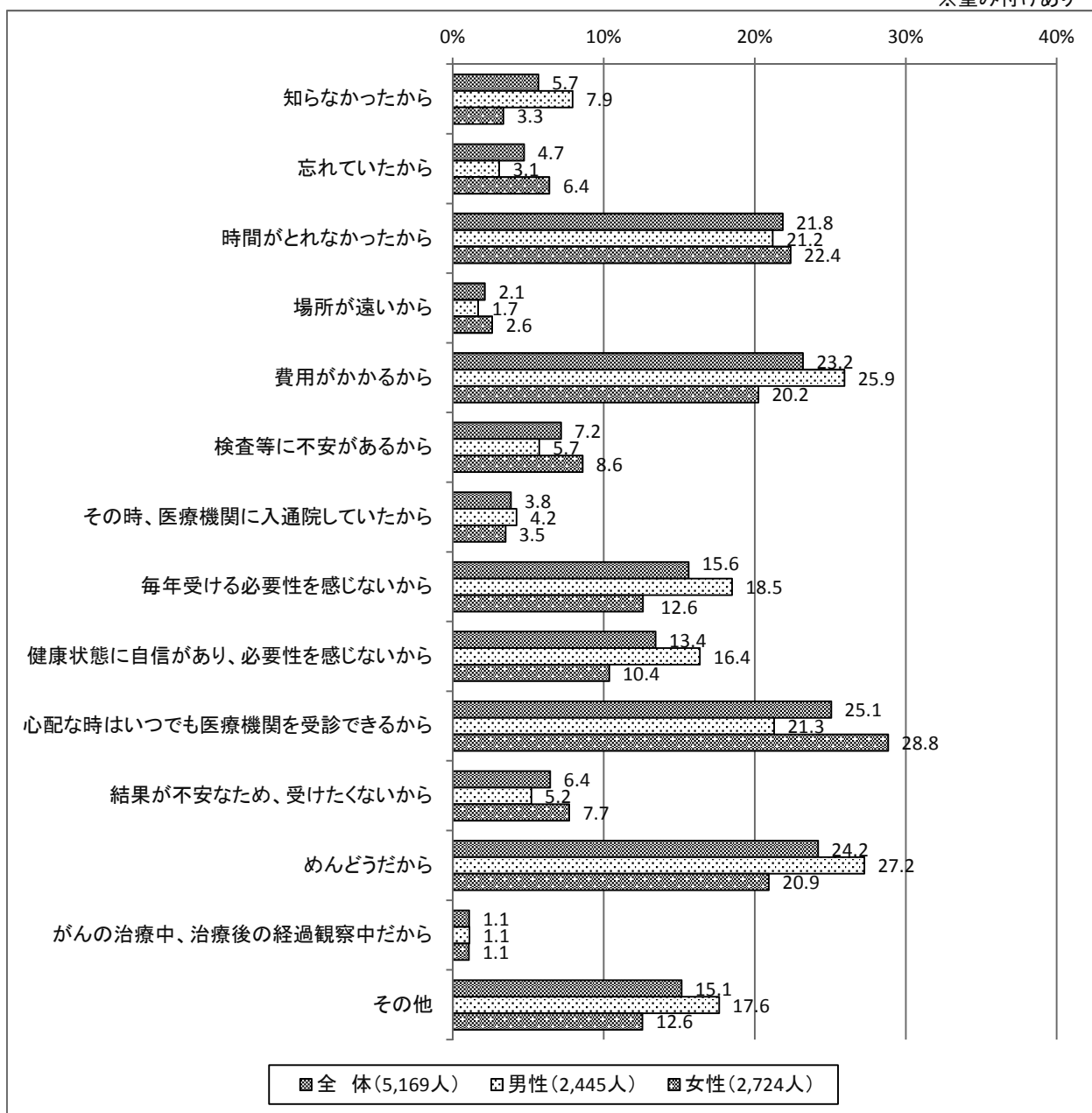
※40代～60代のみ
※重み付けあり



問25-1 それは、どのような理由で受けなかったのですか。(あてはまるものすべてに○)

※問25でがん検診を受けていないと回答した人のみ

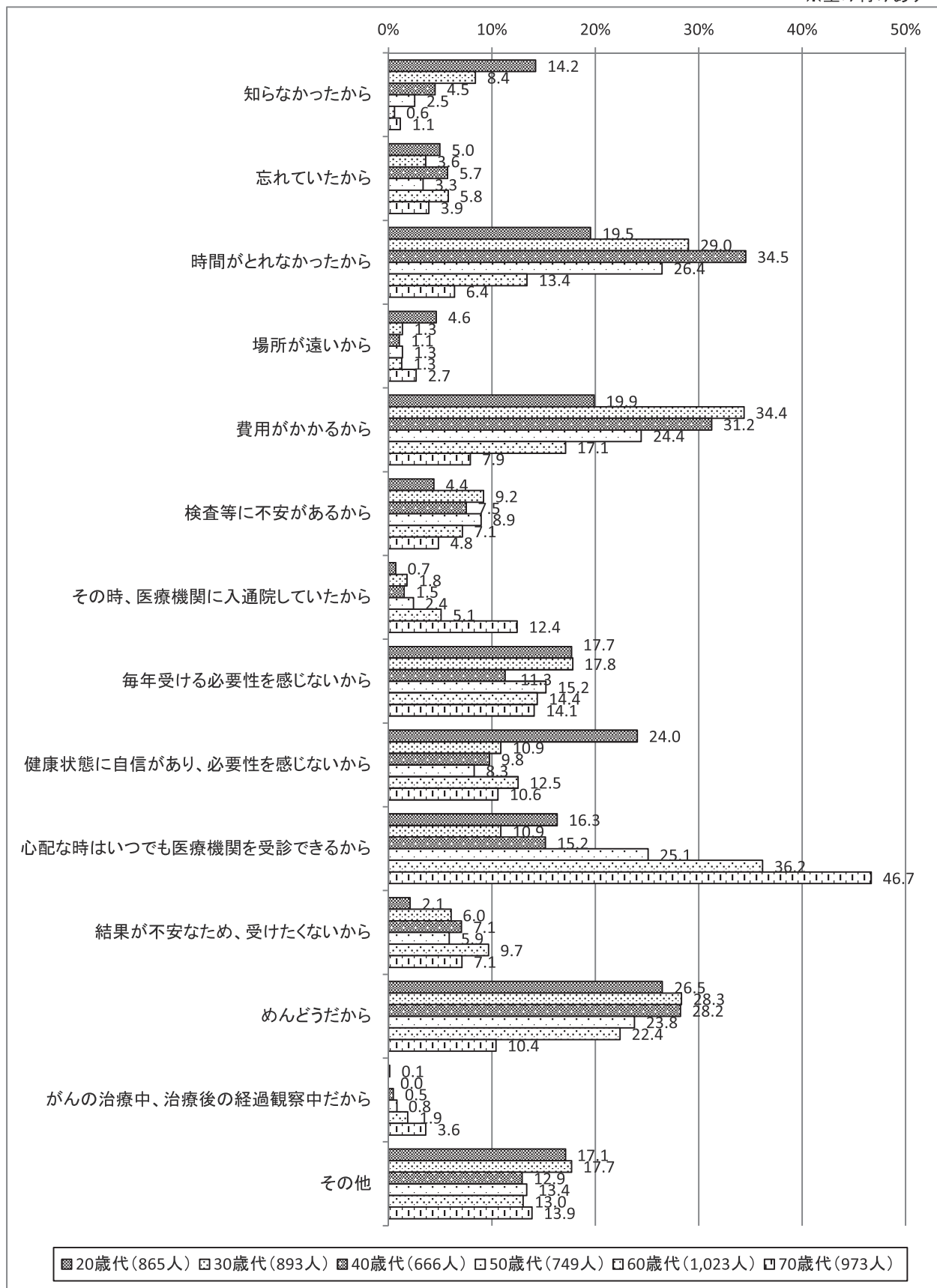
※重み付けあり



検診を受けなかった理由としては、「時間がとれなかったから」、「費用がかかるから」、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」、「めんどうだから」という回答割合が高く、全体の集計では、それぞれ20%から25%程度となった。これらの項目は、性別の集計においても割合が高かった。

年代別の集計では、「時間がとれなかったから」、「費用がかかるから」、「めんどうだから」と回答した割合は、20歳代から50歳代で高く、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」と回答した割合は、60歳代、70歳代で高かった。これは、年代毎のライフスタイルの影響が一因として考えられる。

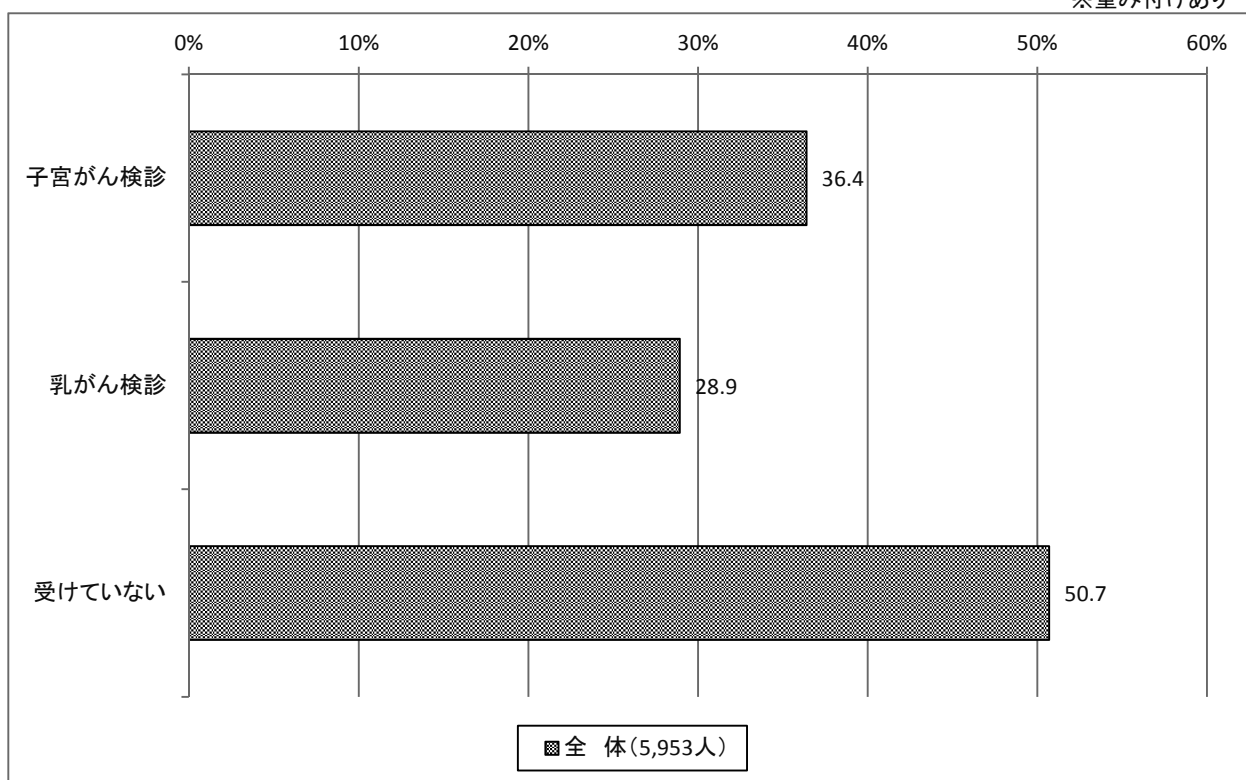
※重み付けあり



問26 あなたは、この2年間に、以下のがん検診を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

※女性のみ回答

※重み付けあり

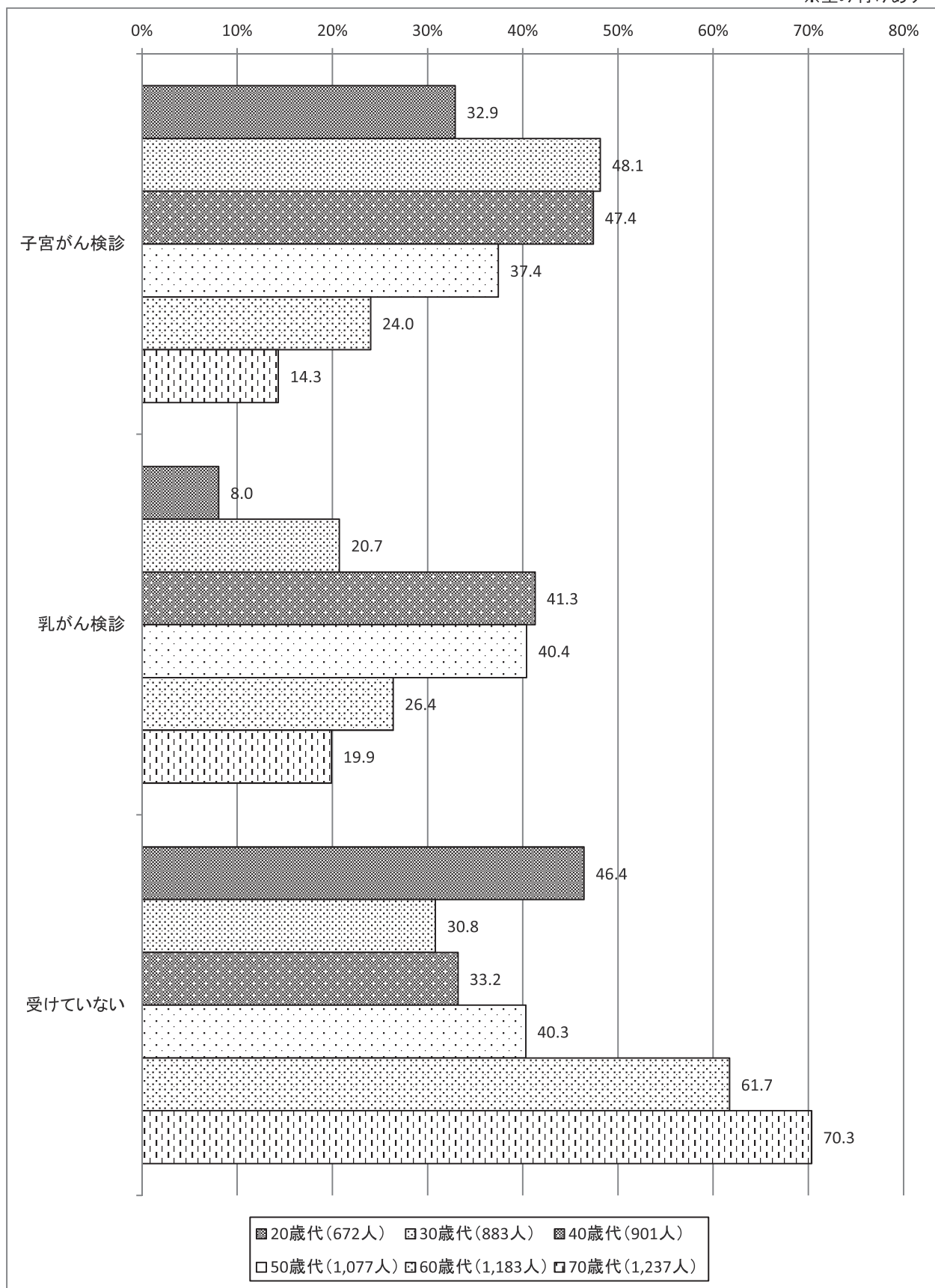


「子宮がん検診」を受けた女性は36.4%、「乳がん検診」を受けた女性は28.9%、いずれも「受けていない」女性は50.7%となった。

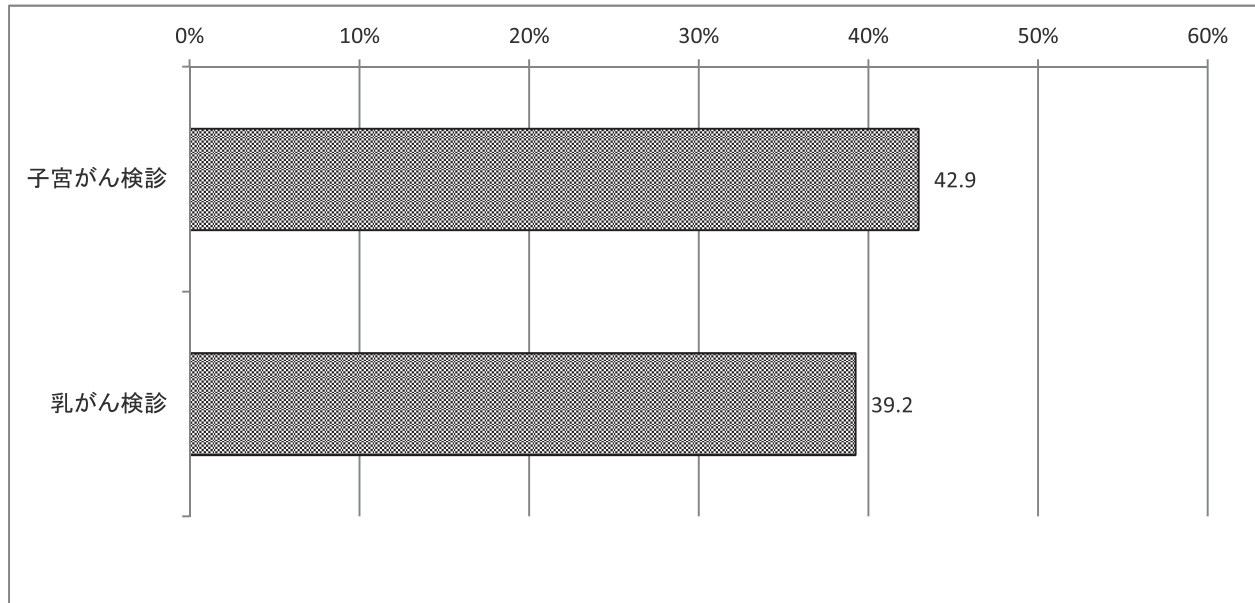
年代別の集計では、30歳代、40歳代において、「受けていない」と回答する割合が低く30%程度であり、この年代では70%程度が「子宮がん検診」、「乳がん検診」のいずれかを受けていた。

参考値 平成25年国民生活基礎調査 子宮がん検診 42.1%、乳がん検診 女：43.4%

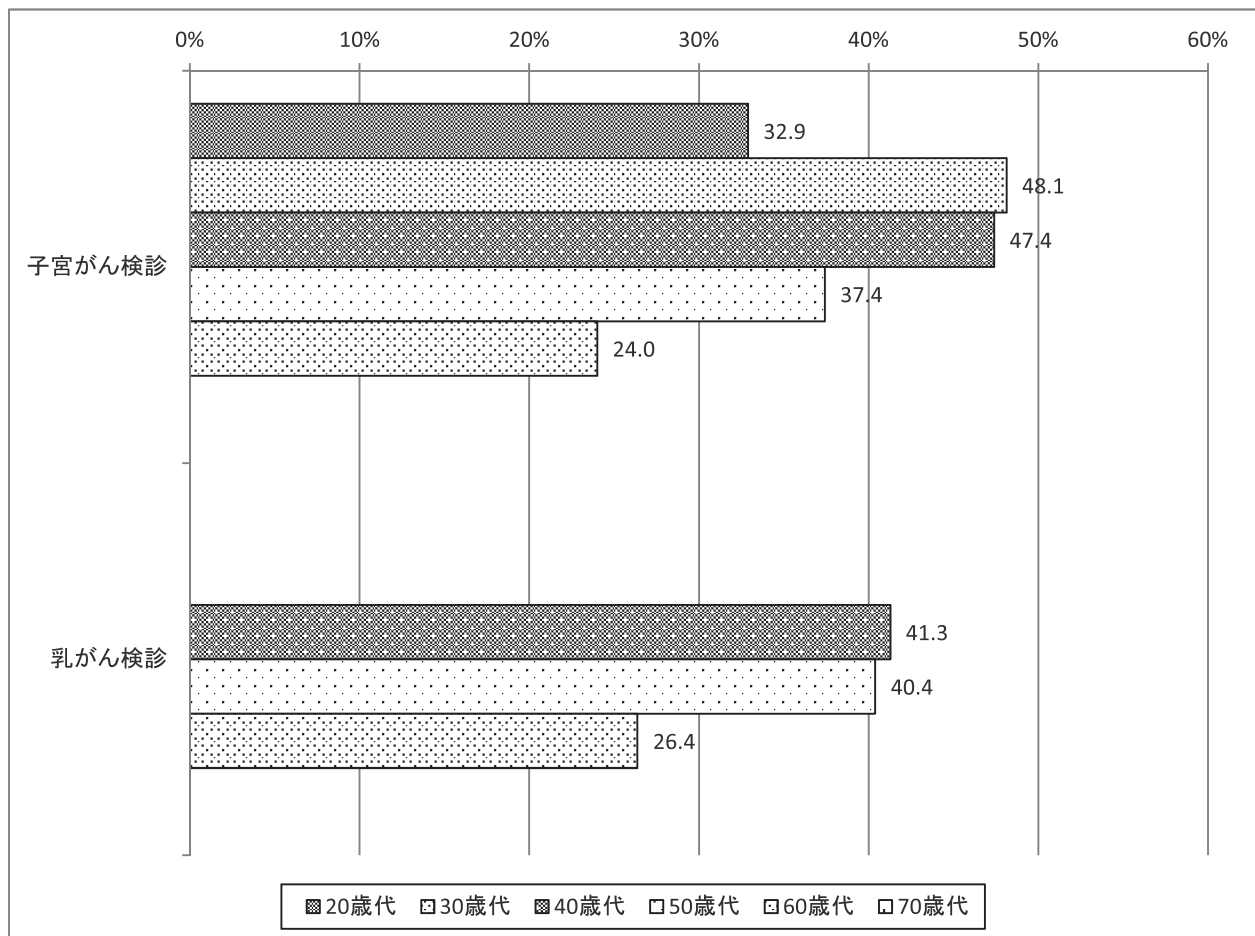
※重み付けあり



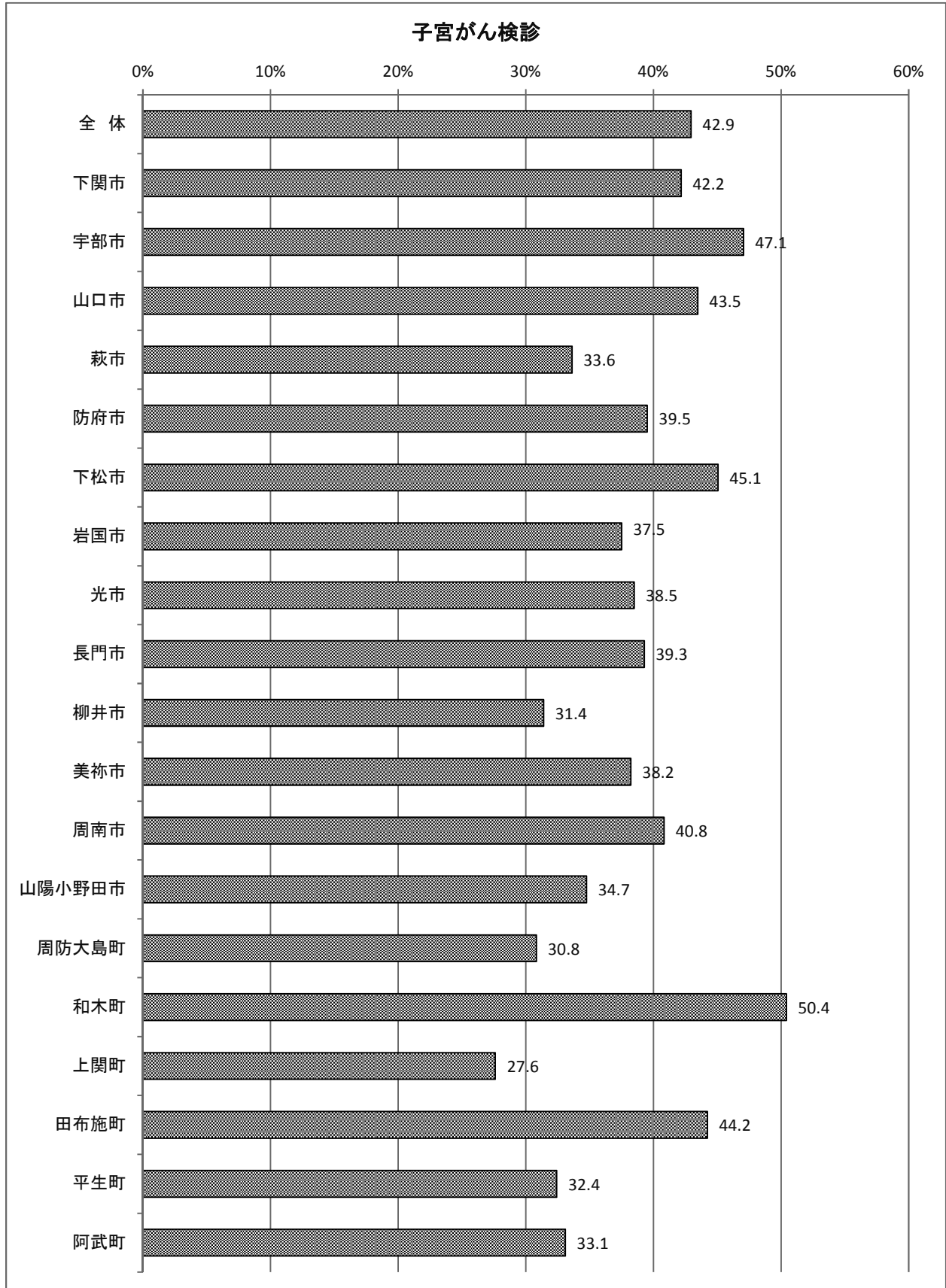
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)
※重み付けあり



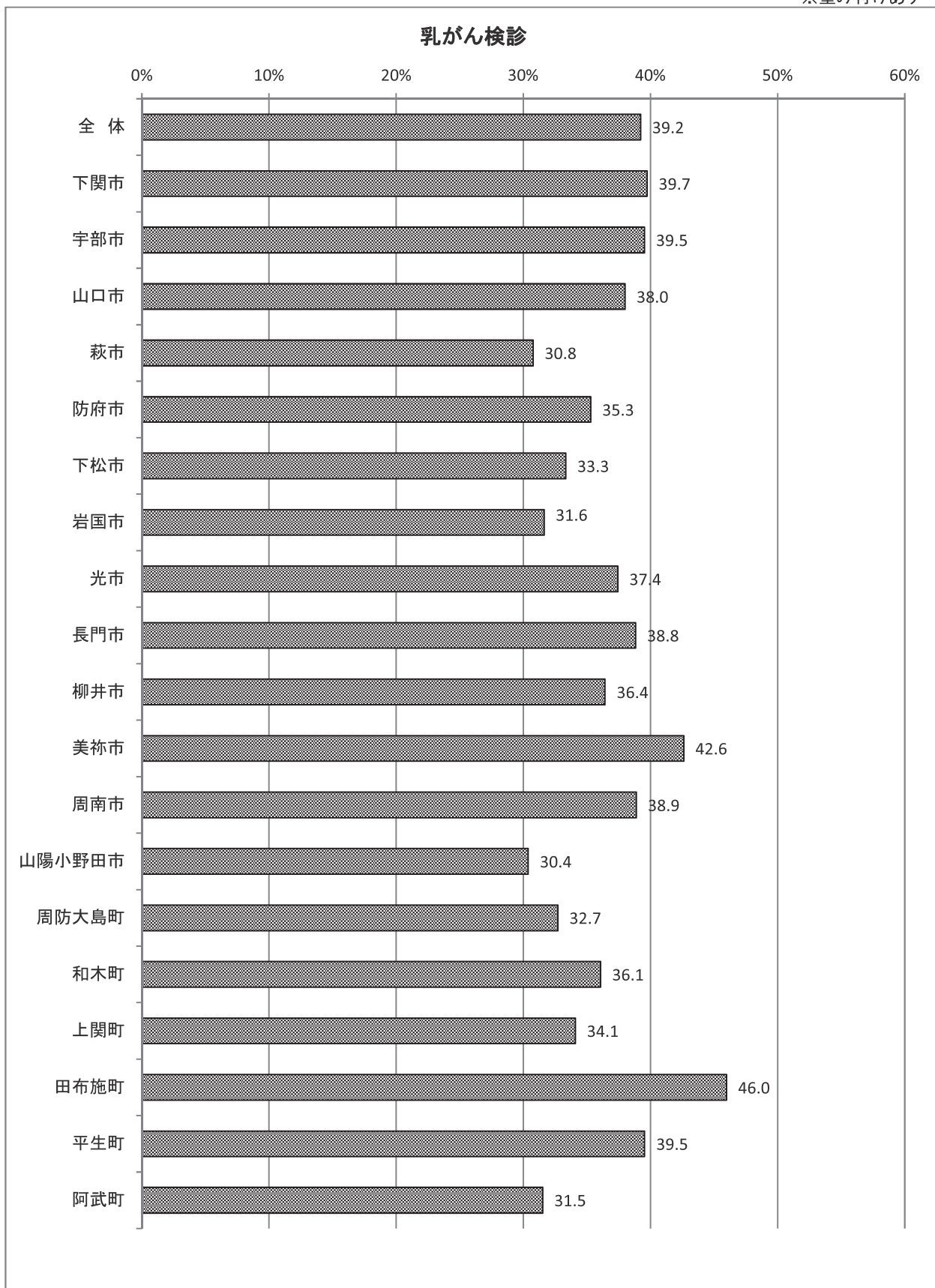
※40代～60代のみ(子宮がんは20代～60代)
※重み付けあり



※20代～60代のみ
※重み付けあり

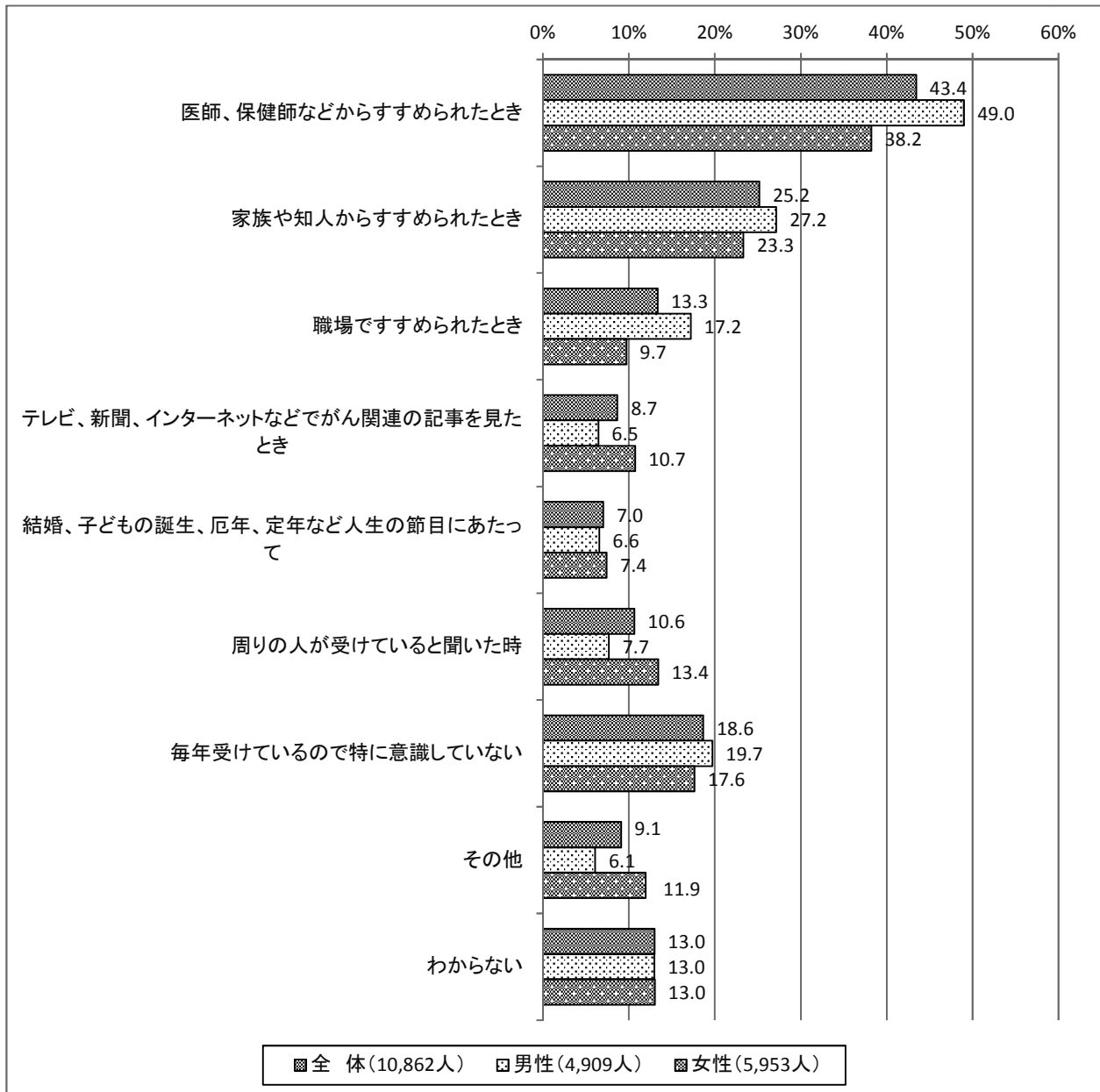


※40代～60代のみ
※重み付けあり



問27 あなたは、どういう状況の時、がん検診を受けようと考えますか。(〇は3つまで)

※重み付けあり

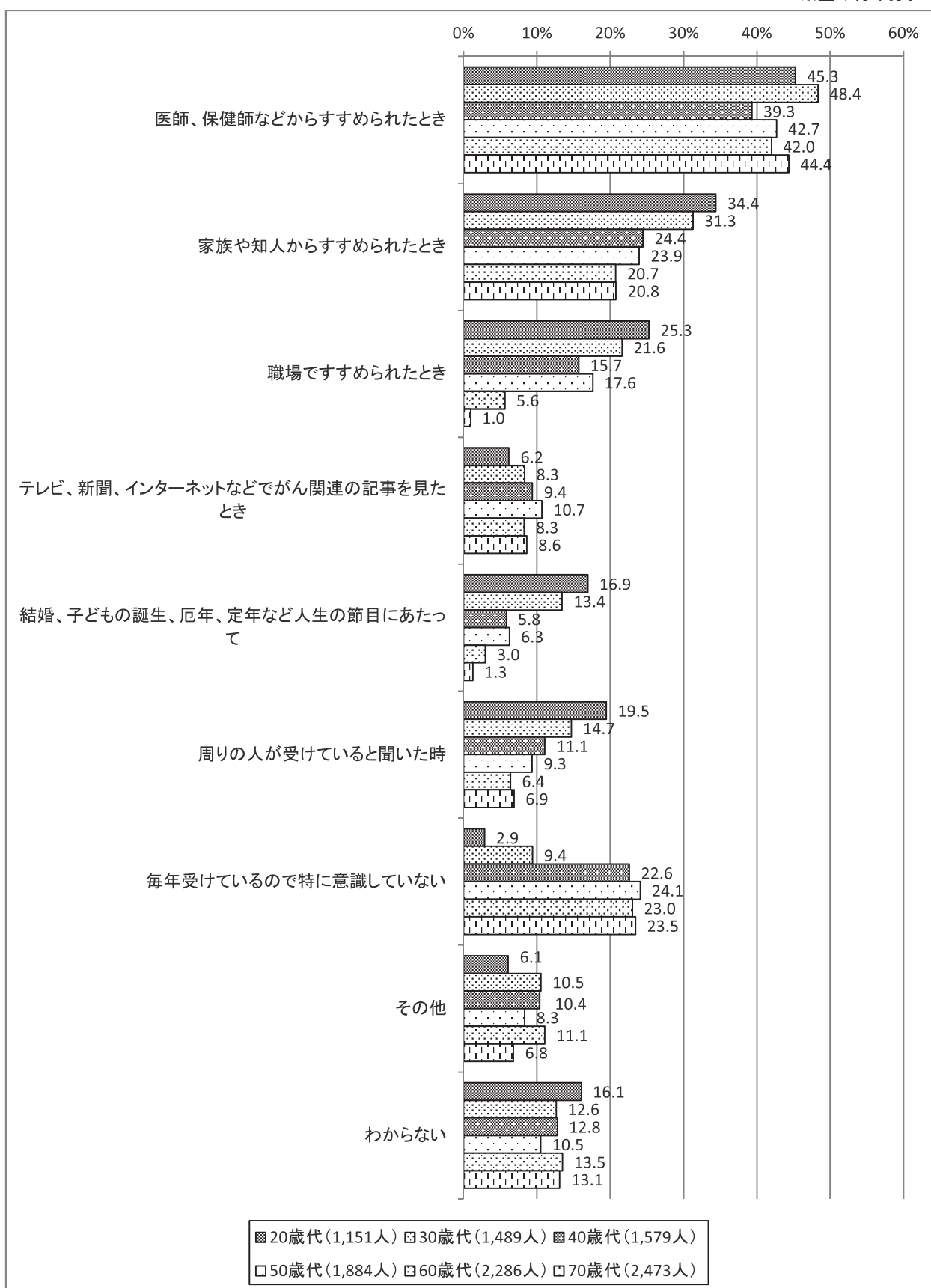


全体の集計において、がん検診を受けようとする状況が「医師、保健師などからすすめられたとき」と回答した割合が43.4%と最大となった。次点で「家族や知人からすすめられたとき」が25.2%となった。また、18.6%が「毎年受けているので特に意識していない」と回答した。

性別の集計においても、男女間の回答割合に差は認められるものの同様の傾向があった。

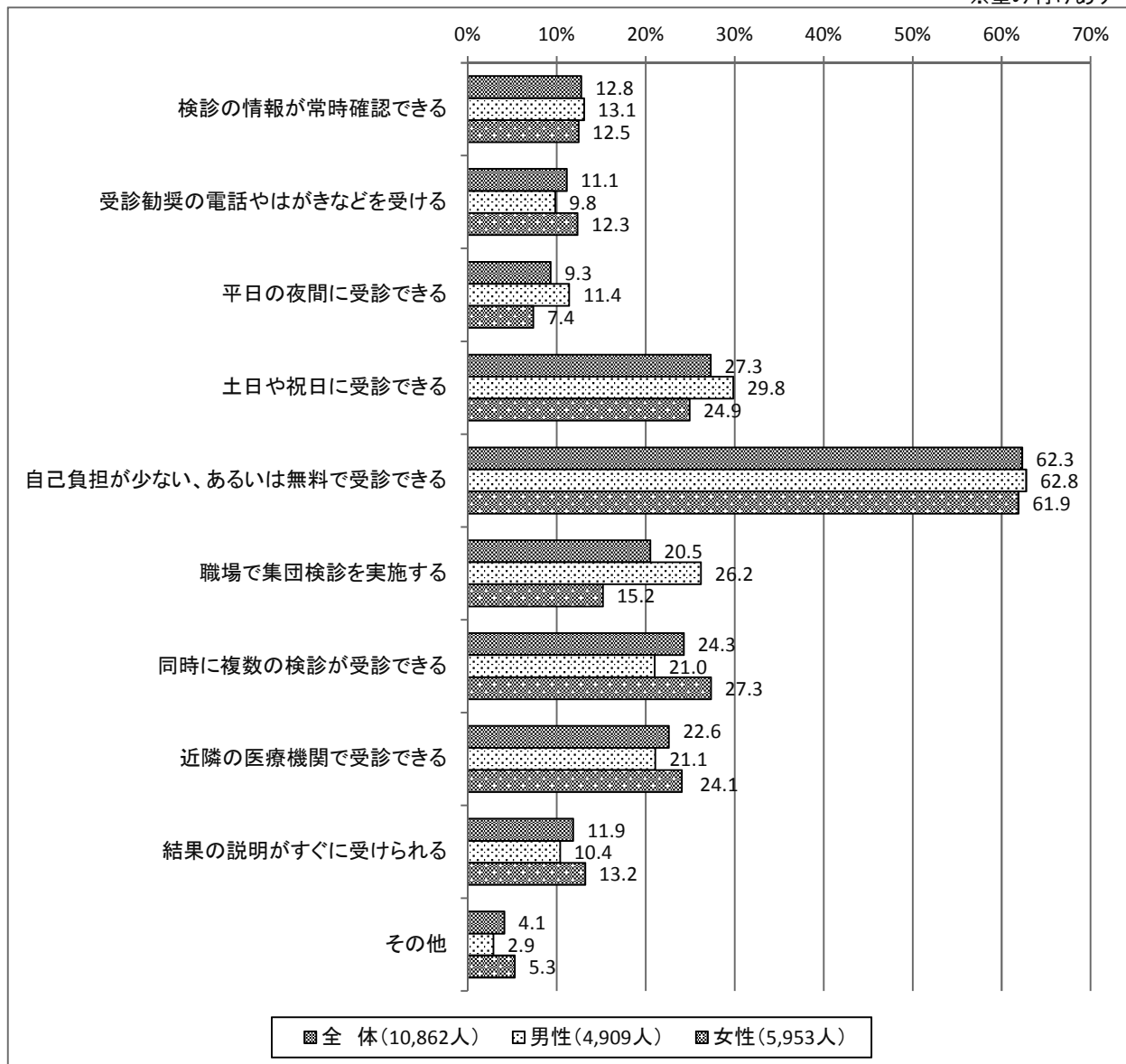
年代別の集計でも、「医師、保健師などからすすめられたとき」と回答した割合は、各年代で高く、「毎年受けているので特に意識していない」と回答した割合は、40歳代以降横ばいで20%強となった。

※重み付けあり



問28 どうすれば、がん検診を受けやすくなると思いますか。(○は3つまで)

※重み付けあり



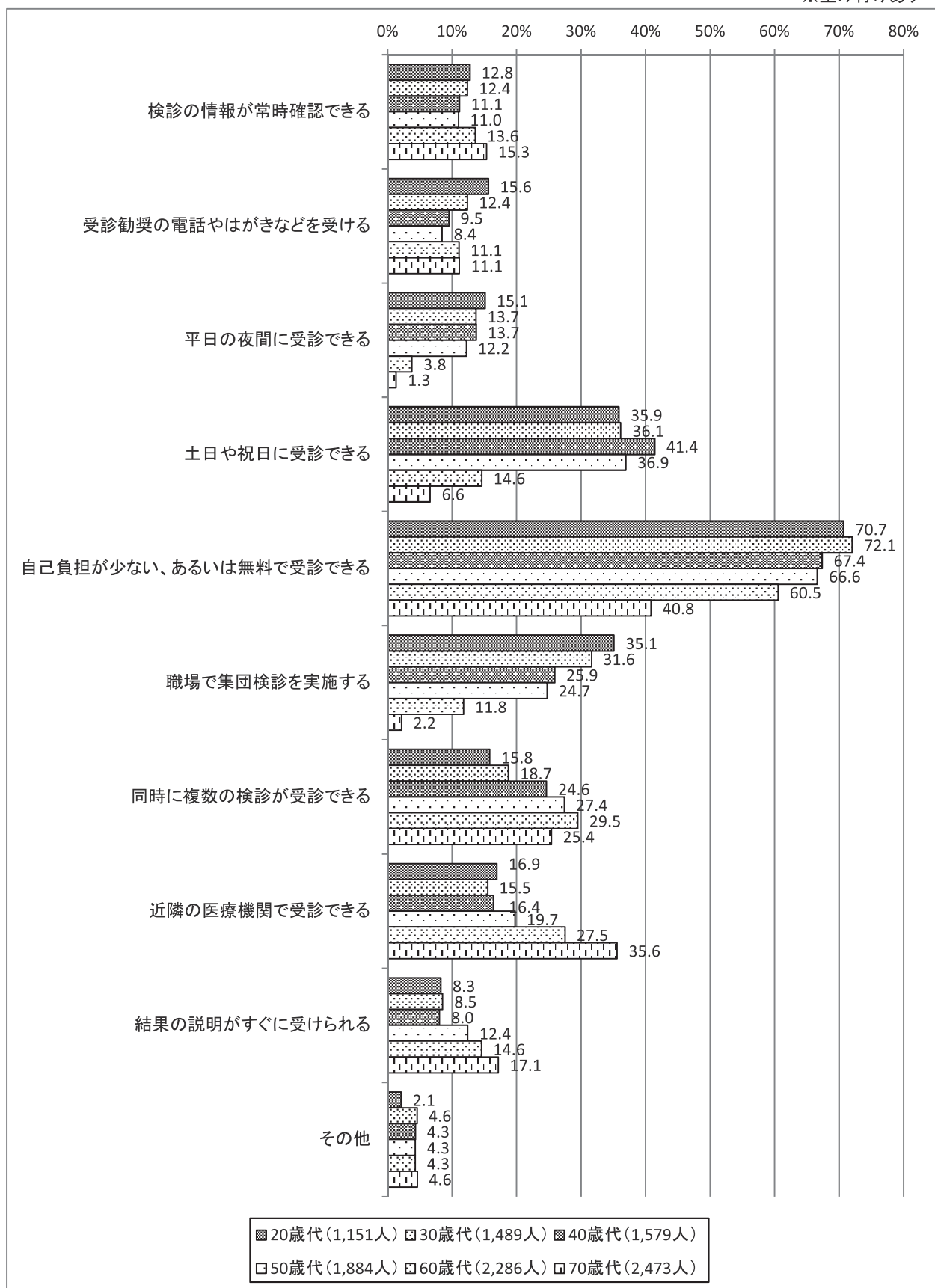
「どうすれば、がん検診を受けやすくなると思いますか。」という問いに対し、全体の集計では「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」と回答した割合が最も高く62.3%であった。

性別の集計においても、同様の結果が得られた。

年代別の集計において、20歳代から60歳代では「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」と回答した割合が他の回答項目と比較しても高く6割を超えた。70歳代では「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」に次ぎ「近隣の医療機関で受診できる」と回答した割合も多かった。

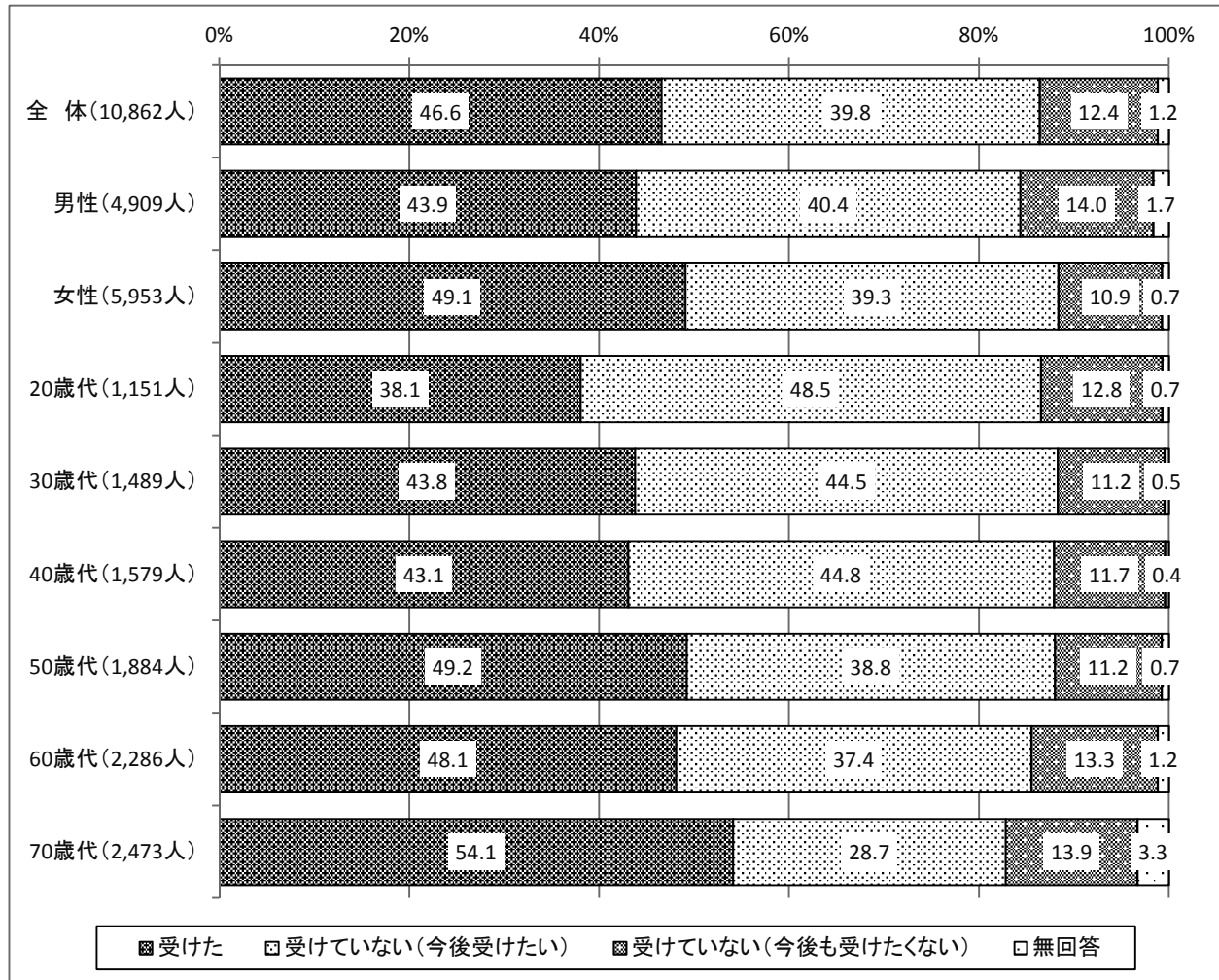
参考値 平成25年県民意識調査 「自己負担が少ない、あるいは無料で受診できる」65.9%、
「同時に複数の検診（健診）が受診できる」26.8%、「土日や祝日に受診できる」26.4%

※重み付けあり



問29 あなたは、この1年間に、歯科検診を受けましたか。(○は1つ)

※重み付けあり



「あなたは、この1年間に、歯科検診を受けましたか。」という問いに対し、全体の集計で46.6%が「受けた」と回答、また、39.8%が「受けていない(今後受けたい)」と回答した。全体の8割以上が歯科検診を受ける必要性を感じていた。

性別の集計においても、「受けた」または「受けていない(今後受けたい)」と回答した割合は、男女共に8割を超えており、多くが歯科検診を受ける必要性を感じていた。実際に「受けた」と回答した割合は、男性の方がやや低く43.9%、女性で49.1%であった。

年代別の集計においても、「受けた」または「受けていない(今後受けたい)」と回答した割合は、各年代で8割を超えており、多くが歯科検診を受ける必要性を感じていた。実際に「受けた」と回答した割合は、20歳代で低く38.1%、それ以降の年代では、年を重ねるにつれて「受けた」と回答する割合が増加する傾向にあった。

参考値 平成25年山口県健康づくりに関する意識調査 「受けた」47.7%

※重み付けあり

